

文 学 部

履 修 要 項

昭 和 63 年 度

駒 澤 大 學

学 年 暦

前 期

- 4月 8日(金) 入学式
- 9日(土) } 新生オリエンテーション
- 14日(木) }
- 9日(土) } 在校生身分証明登録
- 20日(水) }
- 11日(月) } 在校生成績発表
- 12日(火) }
- 11日(月) } 体育実技Ⅱ受講届(種目選択届)
- 12日(火) } 受付(学部2年次生)
- 13日(水) }
- 21日(木) } 在校生成績質疑応答
- 15日(金) 前期授業開始
- 22日(金) } 履修届受付(学部・短大)
- 27日(水) } (学部により受付日が異なる)
- 5月 9日(月) } 春季健康診断(卒業年次生対象)
- 13日(金) }
- 25日(水) } 卒業論文論題受付(仏教・文学部の4年次生)(締切日は正午まで)
- 6月10日(金) }
- 7月 6日(水) } 外国語指定届受付(仏教・文(除英米文)・法学部・短大國文・英文の1年次生および経済学部の2年次生)
- 12日(火) }
- 14日(木) } 中間試験(授業平常どおり)
- 20日(水) }
- 20日(水) 前期授業最終日
- 21日(木) } 前期終了科目定期試験
- 22日(金) }
- 23日(土) 夏季休暇第1日(9月14日まで)
- 23日(土) } 体育実技Ⅱ集中授業コース
- 27日(水) } (学部2年次生)
- 26日(火) } 前期終了科目定期試験欠試届(追試験申込)受付締切

後 期

- 9月 7日(水) } 補講期間
- 14日(水) }
- 16日(金) 後期授業開始
- 17日(土) } 前期終了科目定期試験成績発表(質疑応答)および再試験申込受付
- 19日(月) }

- 26日(月) } 前期終了科目追・再試験
- 10月 1日(土) } (授業平常どおり)
- 3日(月) }
- 6日(木) } 秋季健康診断(卒業年次生以外対象)
- 4日(火) } 専攻コース指定届受付
- 5日(水) } (歴史・社会学科の1年次生)
- 15日(土) 第106回開校記念日(全学休業)
- 11月 9日(水) } 転部・転科願書受付
- 11日(金) }
- 25日(金) 転部・転科試験
- 12月 1日(木) } 卒業論文受付(仏教・文学部の4年次生)(締切日は正午まで)
- 10日(土) }
- 5日(月) } 編・再入学願書受付
- 9日(金) }
- 19日(月) 冬季休暇第1日(1月7日まで)
- 19日(月) } 体育実技Ⅱ集中授業コース
- 23日(金) } (学部2年次生)
- 20日(火) 編・再入学試験

昭和64年

- 1月 9日(月) 後期授業再開
- 14日(土) 後期授業最終日
- 17日(火) } 定期試験(専門・基礎・教職科目)
- 27日(金) }
- 28日(土) } 定期試験(一般・外国語・保健体育科目)
- 2月 6日(月) }
- 7日(火) } 定期試験欠試届受付締切(学部4年次生・短大生)
- 7日(火) } 定期試験欠試届(追試験申込)受付締切(学部1~3年次生)
- 7日(火) } 卒業論文口頭試問(仏教・文学部の4年次生)
- 16日(木) } 体育実技Ⅱシーズン・コース(スキー)
- 20日(月) } (学部2年次生)
- 17日(金) } 成績発表(質疑応答)および追・再試験申込受付(学部4年次生・短大生)
- 18日(土) }
- 24日(金) } 追・再試験(学部4年次生・短大生)および追試験(学部1~3年次生)
- 3月 2日(木) }
- 20日(月) 卒業生名簿発表
- 25日(土) 卒業式

目 次

I	単位制と学年制	
1.	単位制と学年制	(1)
2.	授業科目の単位計算	(1)
3.	授業科目の区分	(1)
II	卒業に必要な単位数と卒業論文	
1.	卒業に必要な単位数	(2)
2.	卒業論文	(13)
3.	学 士 号	(13)
III	授業科目の履修方法	
1.	一般教育科目の履修方法	(14)
2.	外国語科目の履修方法	(16)
3.	保健体育科目の履修方法	(19)
4.	基礎教育科目の履修方法	(20)
5.	専門教育科目の履修方法	(20)
6.	他学部科目の履修方法	(40)
7.	随意科目の履修方法	(42)
8.	再履修科目の履修方法	(42)
	※「日本語」・「日本事情」科目の履修方法	(42)
	※ 授業科目のコード番号について	(43)
IV	履修科目の登録（履修届）とその作成順序	
1.	履修科目の登録	(44)
2.	履修届記入上の注意	(45)
3.	履修届（時間割）の作成順序	(46)
V	試験および成績評価	
1.	定期試験	(48)
2.	中間試験	(48)
3.	追・再試験	(48)
4.	受験心得	(49)
5.	成績評価・単位認定	(49)
6.	試験時間	(49)

VI	進級について	(50)
VII	クラス制およびクラス主任	(51)
VIII	教職課程・資格講座	(51)
IX	事務取扱いについて	
	1. 成績発表・成績証明書	(52)
	2. 授業時間	(52)
	3. 事務室の事務受付時間	(52)
	4. 休 講	(52)
	5. 掲 示	(52)
	6. 問い合わせ	(52)
X	学籍について	
	1. 修業年限と在学年数	(53)
	2. 休 学	(53)
	3. 復 学	(53)
	4. 退 学	(54)
	5. 除 籍	(54)
	6. 懲 戒	(54)
	7. 編 入 学 (学士入学)	(54)
	8. 再 入 学	(54)
	9. 転部・転科	(54)
	10. 留 学	(55)
	11. 学生氏名・保証人	(55)
	12. 学生番号	(55)
XI	既修得単位の認定について	(56)
XII	届書・願書について	(57)
XIII	各種証明書取扱い窓口	(58)
	試験実施規程(抜粋)	(59)
	進 級 規 程	(61)
	講 義 内 容	(63)

I 単位制と学年制

1. 単位制と学年制

授業科目の履修は「大学設置基準」に基づく単位制によって行う。単位制とは、各入学年度によって定められた一定の基準に従って授業科目を履修し、試験に合格することによってその授業科目に与えられている単位を修得していく制度である。卒業所要単位を修得するまでの在学年数は4年以上（7年を超えてはならない）である。

また、単位の修得を体系的かつ合理的に進めるために、各年次において必修すべき科目と選択すべき科目が配当されている。

2. 授業科目の単位計算

授業科目の単位数は次のような基準によって定められている。

1単位とは1科目につき45時間を通じて行う学修活動のことである。この45時間の学修活動は教室内における授業時間と教室外で学生各自が自主的に行う自習時間からなっていて、授業時間と自習時間の割合は、授業科目によって異なっている。

3. 授業科目の区分

授業科目は次のように区分される。

1. 一般教育科目（人文分野・社会分野・自然分野）
2. 外国語科目（第1外国語・第2外国語）
3. 保健体育科目（講義・実技）
4. 基礎教育科目（必修科目）
5. 専門教育科目（必修科目・選択科目）
6. 他学部科目（選択科目）
7. 随 意 科 目（卒業に必要な単位に含まれない科目）

(a) 必 修 科 目……必ず履修しなければならない科目

(b) 選択必修科目……数科目の中から所定の科目数または単位数を選び、必ず履修しなければならない科目

(c) 選 択 科 目……自由に選び履修できる科目

Ⅱ 卒業に必要な単位数と卒業論文

1. 卒業に必要な単位数

国文学科

A. 60年度以降入学生適用

授業科目の区分		科目数	修得単位	計	合計
一般教育科目	人文分野	4	16	28	128以上
	社会分野	2	8		
	自然分野	1	4		
外国語科目	第1外国語	4	8	12	
	第2外国語	2	4		
保健体育科目	講義	1	2	4	
	実技	2	2		
基礎教育科目		3	12	12	
専門教育科目	必修	12	36	72	
	選択		28		
	卒業論文(必修)		8		

B. 59年度以前入学生適用

授業科目の区分		科目数	修得単位	計	合計
一般教育科目	人文分野	4	16	28	128以上
	社会分野	2	8		
	自然分野	1	4		
外国語科目	第1外国語	4	8	12	
	第2外国語	2	4		
保健体育科目	講義	1	2	4	
	実技	1	2		
基礎教育科目		3	12	12	
専門教育科目	必修	12	36	72	
	選択		28		
	卒業論文(必修)		8		

英米文学科

A. 60年度以降入学生適用

授業科目の区分		科目数	修得単位	計	合計
一般教育科目	人文分野	4	16	28	130以上
	社会分野	2	8		
	自然分野	1	4		
外国語科目	第1外国語	5	10	14	
	第2外国語	2	4		
保健体育科目	講義	1	2	4	
	実技	2	2		
基礎教育科目		5	12	12	
専門教育科目	必修	7	28	72	
	選択		36		
	卒業論文(必修)		8		

B. 58・59年度入学生適用

授業科目の区分		科目数	修得単位	計	合計
一般教育科目	人文分野	4	16	28	130以上
	社会分野	2	8		
	自然分野	1	4		
外国語科目	第1外国語	5	10	14	
	第2外国語	2	4		
保健体育科目	講義	1	2	4	
	実技	1	2		
基礎教育科目		5	12	12	
専門教育科目	必修	7	28	72	
	選択		36		
	卒業論文(必修)		8		

英米文学科

C. 57年度以前入学生適用

授 業 科 目 の 区 分		科 目 数	修 得 単 位	計	合 計
一 般 教 育 科 目	人 文 分 野	4	16	28	} 130以上
	社 会 分 野	2	8		
	自 然 分 野	1	4		
外 国 語 科 目	第 1 外 国 語	5	10	14	
	第 2 外 国 語	2	4		
保 健 体 育 科 目	講 義	1	2	4	
	実 技	1	2		
基 礎 教 育 科 目	育 科 目	5	12	12	
専 門 教 育 科 目	必 修	6	24	72	
	選 択		40		
	卒 業 論 文 (必 修)		8		

地理学科

A. 60年度以降入学生適用

授業科目の区分		科目数	修得単位	計	合計
一般教育科目	人文分野	3	12	32	128以上
	社会分野	3	12		
	自然分野	2	8		
外国語科目	第1外国語	4	8	12	
	第2外国語	2	4		
保健体育科目	講義	1	2	4	
	実技	2	2		
基礎教育科目		2	8	8	
専門教育科目	必修	6	16	72	
	選択		48		
	卒業論文(必修)		8		

B. 59年度以前入学生適用

授業科目の区分		科目数	修得単位	計	合計
一般教育科目	人文分野	3	12	32	128以上
	社会分野	3	12		
	自然分野	2	8		
外国語科目	第1外国語	4	8	12	
	第2外国語	2	4		
保健体育科目	講義	1	2	4	
	実技	1	2		
基礎教育科目		2	8	8	
専門教育科目	必修	6	16	72	
	選択		48		
	卒業論文(必修)		8		

歴史学科

〔日本史専攻・東洋史専攻・西洋史専攻〕

A. 60年度以降入学生適用

授業科目の区分		科目数	修得単位	計	合計
一般教育科目	人文分野	4	16	36	} 128以上
	社会分野	3	12		
	自然分野	2	8		
外国語科目	第1外国語	4	8	12	
	第2外国語	2	4		
保健体育科目	講義	1	2	4	
	実技	2	2		
基礎教育科目		1	4	4	
専門教育科目	必修	8	32	72	
	選択		32		
	卒業論文(必修)		8		

B. 59年度以前入学生適用

授業科目の区分		科目数	修得単位	計	合計
一般教育科目	人文分野	4	16	36	} 128以上
	社会分野	3	12		
	自然分野	2	8		
外国語科目	第1外国語	4	8	12	
	第2外国語	2	4		
保健体育科目	講義	1	2	4	
	実技	1	2		
基礎教育科目		1	4	4	
専門教育科目	必修	8	32	72	
	選択		32		
	卒業論文(必修)		8		

〔考古学専攻〕

A. 62年度以降入学生適用

授 業 科 目 の 区 分		科 目 数	修 得 単 位	計	合 計
一 般 教 育 科 目	人 文 分 野	4	16	36	} 128以上
	社 会 分 野	3	12		
	自 然 分 野	2	8		
外 国 語 科 目	第 1 外 国 語	4	8	12	
	第 2 外 国 語	2	4		
保 健 体 育 科 目	講 義	1	2	4	
	実 技	2	2		
基 礎 教 育 科 目		1	4	4	
専 門 教 育 科 目	必 修	10	38	72	
	選 択		26		
	卒 業 論 文 (必 修)		8		

B. 60・61年度入学生適用

授 業 科 目 の 区 分		科 目 数	修 得 単 位	計	合 計
一 般 教 育 科 目	人 文 分 野	4	16	36	} 128以上
	社 会 分 野	3	12		
	自 然 分 野	2	8		
外 国 語 科 目	第 1 外 国 語	4	8	12	
	第 2 外 国 語	2	4		
保 健 体 育 科 目	講 義	1	2	4	
	実 技	2	2		
基 礎 教 育 科 目		1	4	4	
専 門 教 育 科 目	必 修	8	32	72	
	選 択		32		
	卒 業 論 文 (必 修)		8		

〔考古学専攻〕

C. 59年度以前入学生適用

授 業 科 目 の 区 分		科 目 数	修 得 単 位	計	合 計
一 般 教 育 科 目	人 文 分 野	4	16	36	} 128以上
	社 会 分 野	3	12		
	自 然 分 野	2	8		
外 国 語 科 目	第 1 外 国 語	4	8	12	
	第 2 外 国 語	2	4		
保 健 体 育 科 目	講 義	1	2	4	
	実 技	1	2		
基 礎 教 育 科 目		1	4	4	
専 門 教 育 科 目	必 修	8	32	72	
	選 択		32		
	卒 業 論 文 (必 修)		8		

社会学科

〔社会学コース〕

A. 60年度以降入学生適用

授業科目の区分		科目数	修得単位	計	合計
一般教育科目	人文分野	3	12	32	132以上
	社会分野	3	12		
	自然分野	2	8		
外国語科目	第1外国語	4	8	12	
	第2外国語	2	4		
保健体育科目	講義	1	2	4	
	実技	2	2		
基礎教育科目		3	12	12	
専門教育科目	必修	12	48	72	
	選択		16		
	卒業論文(必修)		8		

B. 59年度以前入学生適用

授業科目の区分		科目数	修得単位	計	合計
一般教育科目	人文分野	3	12	32	132以上
	社会分野	3	12		
	自然分野	2	8		
外国語科目	第1外国語	4	8	12	
	第2外国語	2	4		
保健体育科目	講義	1	2	4	
	実技	1	2		
基礎教育科目		3	12	12	
専門教育科目	必修	12	48	72	
	選択		16		
	卒業論文(必修)		8		

〔社会福祉コース〕

A. 63年度以降入学生適用

授 業 科 目 の 区 分		科 目 数	修 得 単 位	計	合 計
一 般 教 育 科 目	人 文 分 野	3	12	32	} 132以上
	社 会 分 野	3	12		
	自 然 分 野	2	8		
外 国 語 科 目	第 1 外 国 語	4	8	12	
	第 2 外 国 語	2	4		
保 健 体 育 科 目	講 義	1	2	4	
	実 技	2	2		
基 礎 教 育 科 目		3	12	12	
専 門 教 育 科 目	必 修	13	48	72	
	選 択		16		
	卒 業 論 文 (必 修)		8		

B. 60～62年度入学生適用

授 業 科 目 の 区 分		科 目 数	修 得 単 位	計	合 計
一 般 教 育 科 目	人 文 分 野	3	12	32	} 132以上
	社 会 分 野	3	12		
	自 然 分 野	2	8		
外 国 語 科 目	第 1 外 国 語	4	8	12	
	第 2 外 国 語	2	4		
保 健 体 育 科 目	講 義	1	2	4	
	実 技	2	2		
基 礎 教 育 科 目		3	12	12	
専 門 教 育 科 目	必 修	12	48	72	
	選 択		16		
	卒 業 論 文 (必 修)		8		

〔社会福祉コース〕

C. 59年度以前入学生適用

授 業 科 目 の 区 分		科 目 数	修 得 単 位	計	合 計
一 般 教 育 科 目	人 文 分 野	3	12	32	} 132以上
	社 会 分 野	3	12		
	自 然 分 野	2	8		
外 国 語 科 目	第 1 外 国 語	4	8	12	
	第 2 外 国 語	2	4		
保 健 体 育 科 目	講 義	1	2	4	
	実 技	1	2		
基 礎 教 育 科 目		3	12	12	
専 門 教 育 科 目	必 修	12	48	72	
	選 択		16		
	卒 業 論 文 (必 修)		8		

[心理学コース]

A. 60年度以降入学生適用

授 業 科 目 の 区 分		科 目 数	修 得 単 位	計	合 計
一 般 教 育 科 目	人 文 分 野	3	12	32	} 132以上
	社 会 分 野	3	12		
	自 然 分 野	2	8		
外 国 語 科 目	第 1 外 国 語	4	8	12	
	第 2 外 国 語	2	4		
保 健 体 育 科 目	講 義	1	2	4	
	実 技	2	2		
基 礎 教 育 科 目		3	12	12	
専 門 教 育 科 目	必 修	8	28	72	
	選 択		36		
	卒 業 論 文 (必 修)		8		

B. 59年度以前入学生適用

授 業 科 目 の 区 分		科 目 数	修 得 単 位	計	合 計
一 般 教 育 科 目	人 文 分 野	3	12	32	} 132以上
	社 会 分 野	3	12		
	自 然 分 野	2	8		
外 国 語 科 目	第 1 外 国 語	4	8	12	
	第 2 外 国 語	2	4		
保 健 体 育 科 目	講 義	1	2	4	
	実 技	1	2		
基 礎 教 育 科 目		3	12	12	
専 門 教 育 科 目	必 修	8	28	72	
	選 択		36		
	卒 業 論 文 (必 修)		8		

2. 卒業論文

卒業論文は、あらかじめ自己の研究目標に基づき、2年次以降その研究目標に関連する科目を履修し、4年次で提出しなければならない。

提出された卒業論文（1部）は審査の上、合格者には8単位を認定する。

イ. 論題提出について

- (1) 論題は所定の用紙「卒業論文論題届」に楷書で正確に記入の上、指導教授の承認印を受けて提出すること。
- (2) 提出された論題の変更は原則として認めない。

論題提出期間 5月25日（水）～6月10日（金）正午まで（教務部⑥番窓口）

ロ. 論文作成について

- (1) 論文作成にあたっては常に指導教授に相談して、その指導を受けなければならない。
- (2) 論文は提出した論題により作成すること。
- (3) 論文は所定用紙（大学売店にて販売）を使用すること。
- (4) 論文は楷書でていねいに書くこと。
- (5) 論文の枚数・表紙・体裁等については別に指示する。

ハ. 論文提出について

- (1) 論文は論題受付印のある「卒業論文審査願」とともに提出すること。
- (2) 論文は誤字・脱字・内容等について再点検し、提出すること。

論文提出期間 12月1日（木）～10日（土）正午まで（教務部⑥番窓口）

〔提出期間に遅れたとき、または授業料その他の学費を納入していない場合は受理しない。〕

ニ. 論文審査について

論文は指導教授によって審査・口頭試問を行い可否を判定する。

口頭試問日 2月7日（火）

3. 学 士 号

大学に4年以上（7年を超えてはならない）在学し、卒業に必要な単位を修得した者には卒業証書を授与し、次の学士の称号が与えられる。

国文学科	} ……………文学士
英米文学科	
文学部 地理学科	
歴史学科	
社会学科	

Ⅲ 授業科目の履修方法

※ 北海道教養部では、授業科目等に多少の変更を生ずる場合がある。

授業科目履修上の注意

- イ. 授業科目は、教授会の定めるところに従い各学年に配当する。
- ロ. 授業時間表の備考欄に番号が指定された科目は、本人の学生番号のクラスで履修すること。(再履修または指定された学年で履修できなかった場合はこの限りではない。)
- ハ. 各学年に配当された授業科目は、当該学年に限り履修することができる。ただし、下級学年に配当された授業科目を上級学年において履修することはさしつかえない。
- ニ. 各学年の履修科目数の最低および最高限度は、教授会の定めるところによる。
- ホ. 一度単位の認定を受けた授業科目は、再度履修することはできない。

1. 一般教育科目の履修方法

- イ. 一般教育科目は1年次および2年次の2年間に人文分野・社会分野・自然分野の各分野から各学科の定められた科目数・単位数を履修しなければならない。
- ロ. 各学科「宗教学Ⅰ」を1年次、「宗教学Ⅱ」を2年次の必修科目とする。
- ハ. 各学科2年次までに所定の科目数・単位数を修得していなければならない。

一般教育科目の卒業所要単位数

学科	分野	人文分野	社会分野	自然分野	計
国文学科		16 (4)	8 (2)	4 (1)	28 (7)
英米文学科		16 (4)	8 (2)	4 (1)	28 (7)
地理学科		12 (3)	12 (3)	8 (2)	32 (8)
歴史学科		16 (4)	12 (3)	8 (2)	36 (9)
社会学科		12 (3)	12 (3)	8 (2)	32 (8)

※ ()内の数字は科目数

一般教育科目の授業科目

分野 学科	人 文 分 野			社 会 分 野				自 然 分 野			
	授 業 科 目	単 位	修 得 単 位	授 業 科 目	単 位	修 得 単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	修 得 単 位	
国 文 学 科	宗 教 学 I (1年次必修)	4	「宗教学I」 ・「宗教学 II」を含 めて4科目16 単位選択必 修	法 学 憲 法	4	2 科 目 8 単 位 選 択 必 修	教員免許状 を取得し ようとす るものは 「法学憲 法」を必 修とする 。	自然科学概論	4	1 科 目 4 単 位 選 択 必 修	
	宗 教 学 II (2年次必修)	4		〔日本国憲法〕 2単位を含 む(2年次)	経済学			4	心理学		4
	哲 学	4		〔日本国憲法〕 2単位を含 む				4	人類学		4
	論 理 学	4						社会学	4		
	歴 史 学	4						地理学	4		
	芸術学(日本美術)	4									
芸術学(西洋美術)	4										
英 米 文 学 科	宗 教 学 I (1年次必修)	4	「宗教学I」 ・「宗教学 II」を含 めて4科目16 単位選択必 修	法 学 憲 法	4	2 科 目 8 単 位 選 択 必 修	教員免許状 を取得し ようとす るものは 「法学憲 法」を必 修とする 。	自然科学概論	4	1 科 目 4 単 位 選 択 必 修	
	宗 教 学 II (2年次必修)	4		〔日本国憲法〕 2単位を含 む	経済学			4	心理学		4
	哲 学	4		〔日本国憲法〕 2単位を含 む				4	人類学		4
	論 理 学	4						社会学	4		
	歴 史 学	4						地理学	4		
	芸術学(日本美術)	4									
芸術学(西洋美術)	4										
地 理 学 科	宗 教 学 I (1年次必修)	4	「宗教学I」 ・「宗教学 II」を含 めて3科目12 単位選択必 修	法 学 憲 法	4	3 科 目 12 単 位 選 択 必 修	教員免許状 を取得し ようとす るものは 「法学憲 法」を必 修とする 。	数 学	4	2 科 目 8 単 位 選 択 必 修	
	宗 教 学 II (2年次必修)	4		〔日本国憲法〕 2単位を含 む	経済学			4	物理学		4
	哲 学	4		〔日本国憲法〕 2単位を含 む				4	化学		4
	文 学	4						社会学	4		
	芸術学(日本美術)	4						文化人類学	4		
	芸術学(西洋美術)	4									
歴 史 学 科	宗 教 学 I (1年次必修)	4	「宗教学I」 ・「宗教学 II」を含 めて4科目16 単位選択必 修	法 学 憲 法	4	3 科 目 12 単 位 選 択 必 修	教員免許状 を取得し ようとす るものは 「法学憲 法」を必 修とする 。	自然科学概論	4	2 科 目 8 単 位 選 択 必 修	
	宗 教 学 II (2年次必修)	4		〔日本国憲法〕 2単位を含 む	経済学			4	地 学		4
	哲 学	4		〔日本国憲法〕 2単位を含 む				4	心理学		4
	論 理 学	4						社会学	4		
	文 学	4						地理学	4		
	芸術学(日本美術)	4									
芸術学(西洋美術)	4										
社 会 学 科	宗 教 学 I (1年次必修)	4	「宗教学I」 ・「宗教学 II」を含 めて3科目12 単位選択必 修	法 学 憲 法	4	3 科 目 12 単 位 選 択 必 修	教員免許状 を取得し ようとす るものは 「法学憲 法」を必 修とする 。	自然科学概論	4	2 科 目 8 単 位 選 択 必 修	
	宗 教 学 II (2年次必修)	4		〔日本国憲法〕 2単位を含 む	政治学			4	生 物 学		4
	論 理 学	4		〔日本国憲法〕 2単位を含 む				4	地 学		4
	文 学	4						経済学	4		
	歴 史 学	4						地理学	4		
	芸術学(日本美術)	4									
芸術学(西洋美術)	4										

※「宗教学I」の授業は月曜日に玉川校舎（道順は学生部で配布の「学生手帳」を参照）で行う。

2. 外国語科目の履修方法

外国語科目は英語・ドイツ語・フランス語・中国語・スペイン語・ロシア語の6カ国語が開講されている。これらのうち英語と入学手続の際に指定した外国語の2カ国語を履修することになり、その2カ国語を1年次および2年次（英米文学科は3年次）において必要な科目数・単位数を必ず履修しなければならない。

第1外国語

学 科 年 次	国文学科		英米文学科		地理学科		歴史学科		社会学科	
	科目数	単位数	科目数	単位数	科目数	単位数	科目数	単位数	科目数	単位数
1 年 次	2	4	2	4	2	4	2	4	2	4
2 年 次	2	4	2	4	2	4	2	4	2	4
3 年 次	—	—	1	2	—	—	—	—	—	—
計	4	8	5	10	4	8	4	8	4	8

第2外国語

学 科 年 次	国文学科		英米文学科		地理学科		歴史学科		社会学科	
	科目数	単位数	科目数	単位数	科目数	単位数	科目数	単位数	科目数	単位数
1 年 次	2	4	2	4	2	4	2	4	2	4

1年次の履修

6カ国語のうち英語1G・1Rの2科目と入学手続の際に指定した外国語1G・1Rの2科目の計4科目8単位を必修とする。

授 業 科 目	単 位	科 目 内 容	履 修 科 目 数
英 語 1G	2		1G・1Rの2科目を必修とする。ただし1Gは「英会話I(定員40名)」または「英語LLI(定員30名)」に振り替えできる。(ただし英米文学科は「英会話I」に振り替えできない。)なお、振り替えを希望する者は、最初の授業に『単位履修届』用紙を持参し、担当教員の捺印を必ず受けること。
英 語 1R	2		
英 会 話 I	2		
英 語 L L I	2	視聴覚教材を使用した語学教育	
ド イ ツ 語 1G	2	文 法	5カ国語のうちから入学手続の際指定した1カ国語1G・1Rの2科目を必修とする。
ド イ ツ 語 1R	2	講 読	
フ ラ ン ス 語 1G	2	文 法	
フ ラ ン ス 語 1R	2	講 読	
中 国 語 1G	2	文 法	
中 国 語 1R	2	講 読	
ス ペ イ ン 語 1G	2	文 法	
ス ペ イ ン 語 1R	2	講 読	
ロ シ ア 語 1G	2	文 法	
ロ シ ア 語 1R	2	講 読	

※ 英語科目内容

英語1G：意志表現と意志伝達の基礎を把握する。

英語1R：講読を通し、内容と文構造の基本を把握する。

※ LL……ランゲージ・ラボラトリー

※「英語1R」の授業は月曜日に玉川校舎（道順は学生部で配布の「学生手帳」を参照）で行う。

2年次の履修

1年次で履修の2カ国語のうち、いずれかを第1外国語として2AⅠ・2AⅡの2科目4単位を必修とすること。ただし、英米文学科は英語を第1外国語とする。

授業科目	単位	科目内容	授業科目	単位	科目内容
英語 2AⅠ	2		中国語 2AⅠ	2	講 読
英語 2AⅡ	2		中国語 2AⅡ	2	講 読
ドイツ語 2AⅠ	2	講 読	スペイン語 2AⅠ	2	講 読
ドイツ語 2AⅡ	2	講 読	スペイン語 2AⅡ	2	講 読
フランス語 2AⅠ	2	講 読	ロシア語 2AⅠ	2	講 読
フランス語 2AⅡ	2	講 読	ロシア語 2AⅡ	2	講 読

※ 英語科目内容

英語 2AⅠ：講読を通し、はば広い教養を修得する。

英語 2AⅡ：意志表現と意志伝達の能力を発展させ、応用力を修得する。

3年次の履修（英米文学科のみ）

授業科目	単位	科目内容	履修科目数
英語 3A	2	講 読	3Aを1科目必修

※ 「英語 3A」の授業は学生番号によりクラス編成されているので、各自の学生番号に該当するクラスで履修すること。ただし、所定のクラスで履修不可能な場合は、担当教員に申し出ること。

外国語科目履修上の注意

- イ. 外国語科目の組分けは、すべて授業時間表で指定するので、学生は自己の学科・学生番号（下3ケタ）により該当するクラスを履修すること。
- ロ. 1年次の7月初旬、現在履修の外国語（英語と他の1カ国語）の中から2年次に履修する外国語（第1外国語）を指定し、登録すること。（ただし英米文学科は『英語』のため登録の必要がない。）
なお、登録後の変更はできないので、十分考慮と上行うこと。
また、登録をしない場合、外国語の履修ができなくなることもあるので、必ず行うこと。
- ハ. なお一層の語学教育を望む学生は、外国語随意科目を開講しているので進んで履修されたい。
- ニ. 不合格科目の再履修については、別に定める。
- ホ. 2年次（英米文学科は3年次）までに所定の単位を修得していなければならない。

3. 保健体育科目の履修方法

カリキュラム改訂に伴い、昭和60年度以降入学生より新カリキュラムを適用する。なお、昭和59年度以前入学生は、旧カリキュラムが適用される。

A. 60年度以降入学生適用

保健体育科目は講義と実技に分かれ、講義は1年次に「保健体育理論」を1科目2単位、実技は1年次に「体育実技Ⅰ」を1科目1単位と2年次に「体育実技Ⅱ」を1科目1単位、計3科目4単位を必修とする。

	授 業 科 目	単 位	備 考
講 義	保健体育理論	2	1年次前期または後期
実 技	体育実技Ⅰ	1	1年次通年
	体育実技Ⅱ	1	2年次前期または後期

イ. 講義・体育実技Ⅰの授業は月曜日に玉川校舎で行う。

ロ. 講義・体育実技Ⅰが1年次不合格となった者は2年次において「再履修クラス」を履修し単位を修得する。

※ 体育実技Ⅰについての種目の説明等は、1年次生および「再履修クラス」を履修する者とも最初の授業に配布される『体育実技受講要領』を参照すること。

ハ. 体育実技Ⅱは次の授業形態のいずれかを履修し、単位を修得しなければならない。

A. 本校での前期または後期の体育実技Ⅱの授業

B. 前期（夏季休暇中）または後期（冬季休暇中）に実施される有料のシーズン・コースの授業

C. 前期（夏季休暇中）または後期（冬季休暇中）に実施される玉川校舎での集中授業

ニ. 体育実技Ⅱが2年次不合格となった者は3年次において体育実技Ⅱを再び履修し、単位を修得する。

※ 体育実技Ⅱについての種目の説明、シーズン・コースおよび集中授業等の申込み方法については、『体育実技受講要領』を参照すること。（受講要領配布については、掲示板参照。）

ホ. 講義・実技とも2年次までに所定の単位を修得していなければならない。

B. 59年度以前入学生適用

保健体育科目は講義と実技に分かれ、1年次に2科目4単位を必修とする。

	授 業 科 目	単 位	備 考
講 義	保健体育理論	2	前 期 ま た は 後 期
実 技	体 育 実 技	2	通 年

イ. 講義・実技とも1年次で不合格となった者は「再履修クラス」を履修し単位を修得する。

ロ. 講義・実技とも2年次までに所定の単位を修得していなければならない。

ハ. 講義・実技とも1年次生は玉川校舎で授業を行う。

※ 実技についての種目の説明等は、1年次生および「再履修クラス」を履修する者とも最初の授業に配布される『体育実技受講要領』を参照すること。

4. 基礎教育科目（必修）の履修方法

専門教育の基礎となる授業科目で各年次別履修順序は、次表のとおりである。

年次	国文学科		英米文学科		地理学科		歴史学科		社会学科	
	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位
1 年 次	基礎国語学	4	英文学概論または米文学概論	4	基礎自然地理学	4	基礎歴史学	4	社会学概論	4
	基礎国文学	4	基礎英語ⅠA	2	基礎人文地理学	4			社会福祉原論	4
	基礎中国文学	4	基礎英語ⅠB (会話)	2					心理学概論	4
2 年 次			基礎英語ⅡA	2						
			基礎英語ⅡB (会話)	2						

(注意) 「基礎自然地理学」は「基礎地学(自然地理学)」を、「基礎人文地理学」は「基礎地理学(人文地理学)」を、「社会福祉原論」は「社会福祉概論」を名称変更したものである。

5. 専門教育科目の履修方法

専門教育科目は必修科目と選択科目とに分かれ、それぞれ定められた単位を修得することになっている。履修する授業科目の選択については、専門科目全般にわたって十分検討して履修すること。なお、一度単位を修得した授業科目については再度履修することはできない。

専門教育科目の卒業所要単位数

	国文学科	英米文学科		地理学科	歴史学科			社会学科			
		58年度以降入学生適用	57年度以前入学生適用		日本史 東洋史	考古学		社会学	社会福祉		心理学
						62年度以降入学生適用	61年度以前入学生適用		63年度以降入学生適用	62年度以前入学生適用	
必修科目	36 (12)	28 (7)	24 (6)	16 (6)	32 (8)	38 (10)	32 (8)	48 (12)	48 (13)	48 (12)	28 (8)
選択科目	28	36	40	48	32	26	32	16	16	16	36
卒業論文	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8
計	72	72	72	72	72	72	72	72	72	72	72

※ () 内の数字は科目数

国文学科

必修科目(44単位)

1 年 次 必 修			4 年 次 必 修		
授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
国文学講読Ⅰ	2		国文学研究	4	
2 年 次 必 修			国文学史(上代)	4	1科目4単位選択必修 3年次で必修または選択として履修した科目以外を履修すること。
国語学概論	4		国文学史(中古)	4	
国文学概論	4		国文学史(中世)	4	
国文学講読Ⅱ	2		国文学史(近世)	4	
中国文学講読	2		国文学史(近代)	4	
3 年 次 必 修			国語学演習Ⅱ	2	1科目2単位選択必修 卒業論文に関連のある分野の演習を履修すること。
国文学史(上代)	4	1科目4単位 選択必修	国文学演習Ⅱ(上代)	2	
国文学史(中古)	4		国文学演習Ⅱ(中古)	2	
国文学史(中世)	4		国文学演習Ⅱ(中世)	2	
国文学史(近世)	4		国文学演習Ⅱ(近世)	2	
国文学史(近代)	4		国文学演習Ⅱ(近代)	2	
国語学研究	4		卒業論文	8	13頁参照
国文学講読Ⅲ	2				
国語学演習Ⅰ	2	1科目2単位選択必修 原則として卒業論文に関連のある分野の演習を履修すること。			
国文学演習Ⅰ(上代)	2				
国文学演習Ⅰ(中古)	2				
国文学演習Ⅰ(中世)	2				
国文学演習Ⅰ(近世)	2				
国文学演習Ⅰ(近代)	2				

(注意) 3年次で「国文学演習Ⅰ」を履修した者は原則として4年次も「国文学演習Ⅱ」を、また3年次で「国語学演習Ⅰ」を履修した者は4年次でも「国語学演習Ⅱ」を履修すること。

選 択 科 目 (28単位以上) (2年次以降の履修科目)

	授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
A 群	上 代 文 学	4		国 学 特 講 II	4	
	中 古 文 学	4		国 学 特 講 III	4	
	中 世 文 学	4		国 学 特 講 IV	4	
	近 世 文 学	4		国 学 史 (上 代)	4	選択科目として履修を希望する者は必修とした科目以外を3年次または4年次で履修すること。
	近 代 文 学	4		国 学 史 (中 古)	4	
	国 語 史	4	休 講 } 隔年開講	国 学 史 (中 世)	4	
	国 語 学 史	4		国 学 史 (近 世)	4	
	文 学 概 論	4		国 学 史 (近 代)	4	
	言 語 学 概 論	4		上 代 文 学 講 読	2	2年次生のみ履修すること。
	有 職 故 実	4	休 講	近 代 文 学 講 読	2	
		国 学 特 講 I	4			

	授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
B 群	中 国 文 学	4		日 本 文 化 史 I	4	休 講 } 隔年開講
	中 国 文 学 演 習	4		日 本 文 化 史 II	4	
	中 国 文 学 概 論	4		現 代 美 術	4	
	東 洋 思 想 研 究	4		書 道 実 習 I	4	
	英 米 文 化	4		書 道 実 習 II	4	
	仏 教 概 論	4		美 術 史 概 説	4	
	日 本 史 概 説 I	4	古 代 ・ 中 世	美 術 史	2	半 期 科 目
	日 本 史 概 説 II	4	近 世 ・ 近 代	書 道 史	2	半 期 科 目
	日 本 民 俗 学	4		編 集 実 務	2	半 期 科 目

(注意) 「国文学特講」のⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳは、時代・履修順序等との関係はない。

「A群」より5科目以上、「B群」より2科目以上選び履修されたい。

英米文学科

必修科目

A. 58年度以降入学生適用（36単位）

2年次必修			4年次必修		
授業科目	単位	備考	授業科目	単位	備考
英語学概論	4		卒業論文	8	13頁参照
英作文Ⅰ	4		2年次・3年次必修		
3年次必修			英文学史Ⅰ	4	※ 2年次1科目 3年次1科目 計2科目8単位 選択必修
音声学	4		英文学史Ⅱ	4	
英語史	4		米文学史	4	
シェイクスピア	4				

※ 「英文学史Ⅰ」・「英文学史Ⅱ」・「米文学史」のうち2科目を選択必修とし、残りの1科目は専門選択科目として履修できない。

B. 57年度以前入学生適用（32単位）

2年次必修			2年次または3年次必修		
授業科目	単位	備考	授業科目	単位	備考
英語学概論	4		英文学史Ⅰ	4	1科目4単位 選択必修
3年次必修			英文学史Ⅱ	4	
音声学	4	旧「英語学研究」	米文学史	4	
英語史	4		3年次または4年次必修		
4年次必修			批評論研究	4	
卒業論文	8	13頁参照	シェイクスピア	4	

選 択 科 目

A. 58年度以降入学生適用 (36単位以上)

B. 57年度以前入学生適用 (40単位以上)

授 業 科 目	単 位	履 修 年 次	備 考	授 業 科 目	単 位	履 修 年 次	備 考
英 文 学 史 I	4	2・3・4	※イ 必修とした 科目以外をこ 履修すること。	英 文 学 演 習 I (中世)	4	3・4	
英 文 学 史 II	4	2・3・4		英 文 学 演 習 II (英文学16・17c.)	4	3・4	
米 文 学 史	4	2・3・4		英 文 学 演 習 IV (英文学18c.)	4	3・4	
英 文 学 特 講 I (英文学16・17c.)	4	3・4		英 文 学 演 習 V (詩19・20c.)	4	2・3・4	
英 文 学 特 講 II (英文学18c.)	4	3・4		英 文 学 演 習 VI (小説 I 19c.)	4	3・4	
英 文 学 特 講 III (詩19・20c.)	4	2・3・4		英 文 学 演 習 VII (小説 II 20c.)	4	2・3・4	
英 文 学 特 講 IV (小説 I 19c.)	4	2・3・4		英 文 学 演 習 VIII (批評19・20c.)	4	3・4	
英 文 学 特 講 V (小説 II 20c.)	4	2・3・4		米 文 学 演 習 I (詩)	4	2・3・4	
英 文 学 特 講 VI (批評19・20c.)	4	3・4		米 文 学 演 習 II (小説 I)	4	2・3・4	
米 文 学 特 講 I (詩)	4	2・3・4		米 文 学 演 習 III (小説 II)	4	3・4	
米 文 学 特 講 II (小説 I)	4	2・3・4		米 文 学 演 習 IV (小説 III)	4	2・3・4	
米 文 学 特 講 III (小説 II)	4	2・3・4		米 文 学 演 習 V (批評)	4	3・4	
米 文 学 特 講 IV (小説 III)	4	2・3・4		米 文 学 演 習 VI (小説 IV)	4	3・4	
米 文 学 特 講 V (批評)	4	3・4		英 米 演 劇 演 習	4	2・3・4	
英 米 演 劇 特 講	4	2・3・4		時 事 英 語	4	2・3・4	旧 英米時文研究
英 作 文 I	4	3・4	※ロ	商 業 英 語	4	3・4	
英 米 語 学 演 習 (言語学)	4	3・4	旧「英米語学演習(英語学)」	ラ テ ン 語 特 講	4	2・3・4	
英 米 語 学 演 習 (英語史)	4	3・4	休 講	英 米 文 化	4	2・3・4	
英 米 語 学 演 習 (英文法)	4	3・4		日 本 文 化 史 I	4	2・3・4	休 講 } 隔 年 開 講
英 米 語 学 演 習 (英作文 II)	4	3・4	※ハ	日 本 文 化 史 II	4	2・3・4	
英 米 語 学 演 習 (英会話)	2	3・4		現 代 美 術	4	2・3・4	

※イ. 57年度以前入学生適用

※ロ. 57年度以前入学生適用 旧「英米語学演習(英作文)」。

※ハ. 58年度以降入学生適用

(注意) 同一科目は再度履修しても単位にはならない。

◇ 演習科目の履修方法

I) 履修科目数

- イ. 2・3・4年次に演習1科目(4単位)ずつ、あわせて3科目(12単位)を極力履修すること。
- ロ. 2年次で履修できる演習科目は1科目とする。
- ハ. 3年次で履修できる演習科目は3科目以内とする。
- ニ. 4年次で履修できる演習科目は2科目以内とする。

II) 履修上の注意

- イ. 各種演習科目とも先着50名で締め切る。なお、教務部に『単位履修届』を提出する前に、受講希望の科目担当の先生に本人が直接届け出て『単位履修届』に捺印を受けること。
- ロ. 担当の先生に届け出る日・時・場所については、教務部の掲示板に掲示するので注意すること。
- ハ. 57年度以前入学生で(旧)「英米語学演習(英作文)」の履修希望者は、「英作文I」を履修すること。なお、その場合「英作文I」の4講座のうちいずれかひとつを選択し、担当の先生に本人が直接届け出て『単位履修届』に捺印を受けること。捺印の日時は、他の演習科目と同じとする。

地理学科

必修科目(24単位)

2年次必修		3年次必修		4年次必修	
授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位
自然地理学実習 (地図学実習を含む)	2	地理学総論	4	地理学演習	4
人文地理学実習	2	野外巡検II	2	卒業論文 (13頁参照)	8
野外巡検I	2				

※ 「地理学総論」は「地理学研究法および地理学史」の名称変更。

(注意) 「地理学演習」および「野外巡検(I・II)」の履修にあたっては、地理学科研究室の指示に必ず従うこと。詳細は適時教務部および地理学教室の掲示板に掲示するので注意すること。

選択科目（48単位以上）

2 年 次 選 択			3 年 次 選 択		
授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
地 形 学 I	4		歴 史 地 理 学	4	
集 落 地 理 学	4		人 口 地 理 学	4	
郷 土 地 理 学	4		経 済 地 理 学 II	4	
経 済 地 理 学 I	4		原 書 講 読	4	
交 通 地 理 学	4		日 本 地 誌 II	4	
地 図 学	4		外 国 地 誌 II	4	
日 本 地 誌 I	4		地 理 学 特 講 I	2	半 期 科 目
外 国 地 誌 I	4		3 ・ 4 年 次 選 択		
3 年 次 選 択			文 化 地 理 学	4	
地 質 学	4		都 市 地 理 学	4	
地 球 物 理 学	4	休 講	計 量 地 理 学	4	
地 形 学 II	4		空 中 写 真 判 読 法 及 び 測 量 学	4	
気 候 学	4		日 本 地 誌 III	4	
土 壌 地 理 学	4		外 国 地 誌 III	4	
海 洋 学 及 び 陸 水 学	4		応 用 地 理 学 I	4	
環 境 地 理 学	4		応 用 地 理 学 II	4	

（注意） 上記のように学年次別に選択科目を分けているが、内容からみて上級学年が下級学年の科目を履修するのはさしつかえない。しかし、下級学年が上級学年の科目を履修することはできない。

◎ 測量士補資格について

地理学科の学生で、「地図学」・「空中写真判読法及び測量学」・「自然地理学実習」・「地理学演習」の単位を修得し、さらに「地形学（I・II）」・「地質学」・「地球物理学」・「応用地理学（I・II）」のうち2科目の単位を修得した者で、測量士補の資格を希望する者は、卒業後、大学が国土地理院長に測量士補の資格が得られるよう推薦する。

また、さらに卒業後1カ年以上測量に関する実務を経験し、その資格を証する書類を申請登録すれば、測量士の資格が得られる。

歴史学科（1年次の秋頃に各自専攻コースを届け出ること。）

必修科目

(1) 日本史専攻（40単位）

2・3・4年次必修			3年次必修		
授業科目	単位	備考	授業科目	単位	備考
史学概論	4		演習Ⅰ（日本史）	4	演習Ⅰ(考古学)に振り替えることができる。
日本史学史	4		4年次必修		
日本史概説Ⅰ(古代・中世)	4		演習Ⅱ（日本史）	4	
日本史概説Ⅱ(近世・近代)	4		卒業論文	8	13頁参照
東洋史概説Ⅰ(古代・中世)	4	2科目8単位 選択必修			
東洋史概説Ⅱ(近世・近代)	4				
西洋史概説Ⅰ(古代・中世)	4				
西洋史概説Ⅱ(近世・近代)	4				
考古学概説Ⅰ(日本)	4				
考古学概説Ⅱ(外国)	4				

(2) 東洋史専攻（40単位）

2・3・4年次必修			3年次必修		
授業科目	単位	備考	授業科目	単位	備考
史学概論	4		演習Ⅰ（東洋史）	4	演習Ⅰ(考古学)に振り替えることができる。
東洋史学史	4		4年次必修		
東洋史概説Ⅰ(古代・中世)	4		演習Ⅱ（東洋史）	4	
東洋史概説Ⅱ(近世・近代)	4		卒業論文	8	13頁参照
日本史概説Ⅰ(古代・中世)	4	2科目8単位 選択必修			
日本史概説Ⅱ(近世・近代)	4				
西洋史概説Ⅰ(古代・中世)	4				
西洋史概説Ⅱ(近世・近代)	4				
考古学概説Ⅰ(日本)	4				
考古学概説Ⅱ(外国)	4				

(3) 西洋史専攻 (40単位)

2・3・4年次必修			3年次必修		
授業科目	単位	備考	授業科目	単位	備考
史学概論	4		演習Ⅰ(西洋史)	4	演習Ⅰ(考古学)に振り替え可能。
西洋史学史	4		4年次必修		
西洋史概説Ⅰ(古代・中世)	4		演習Ⅱ(西洋史)	4	
西洋史概説Ⅱ(近世・近代)	4		卒業論文	8	13頁参照
日本史概説Ⅰ(古代・中世)	4	2科目8単位 選択必修			
日本史概説Ⅱ(近世・近代)	4				
東洋史概説Ⅰ(古代・中世)	4				
東洋史概説Ⅱ(近世・近代)	4				
考古学概説Ⅰ(日本)	4				
考古学概説Ⅱ(外国)	4				

(4) 考古学専攻

A. 62年度以降入学生適用 (46単位)

2・3・4年次必修			2・3・4年次必修		
授業科目	単位	備考	授業科目	単位	備考
史学概論	4		考古学実習(写真)	4	1科目4単位 選択必修
考古学史	4		考古学実習(測量)	4	
考古学概説Ⅰ(日本)	4		考古学実習(石器)	4	
考古学概説Ⅱ(外国)	4		考古学実習(土器)	4	
日本史概説Ⅰ(古代・中世)	4	2科目8単位 選択必修	3年次必修		
日本史概説Ⅱ(近世・近代)	4		考古発掘実習	2	
東洋史概説Ⅰ(古代・中世)	4		演習Ⅰ(考古学)	4	他の専攻の演習Ⅰに振り替え可能。
東洋史概説Ⅱ(近世・近代)	4		4年次必修		
西洋史概説Ⅰ(古代・中世)	4		演習Ⅱ(考古学)	4	
西洋史概説Ⅱ(近世・近代)	4		卒業論文	8	13頁参照

B. 61年度以前入学生適用（40単位）

2・3・4年次必修			3年次必修		
授業科目	単位	備考	授業科目	単位	備考
史学概論	4		演習Ⅰ（考古学）	4	他の専攻の演習Ⅰに振り替えることができる。
考古学史	4		4年次必修		
考古学概説Ⅰ（日本）	4		演習Ⅱ（考古学）	4	
考古学概説Ⅱ（外国）	4		卒業論文	8	13頁参照
日本史概説Ⅰ（古代・中世）	4	2科目8単位 選択必修			
日本史概説Ⅱ（近世・近代）	4				
東洋史概説Ⅰ（古代・中世）	4				
東洋史概説Ⅱ（近世・近代）	4				
西洋史概説Ⅰ（古代・中世）	4				
西洋史概説Ⅱ（近世・近代）	4				

選 択 科 目（2年次以降の履修科目）

日本史専攻・東洋史専攻・西洋史専攻（32単位以上）

考古学専攻（62年度以降入学生適用，26単位以上）

（61年度以前入学生適用，32単位以上）

授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
日 本 史 各 説 I	4	休 講	東洋史特講 I (古 代)	4	休 講 旧「東洋史特講 VII」
日 本 史 各 説 II	4		東洋史特講 II (古 代)	4	休 講
日 本 史 各 説 III	4		東洋史特講 III (古 代)	4	
日 本 史 各 説 IV	4		東洋史特講 IV (中 世)	4	休 講
東洋史各説 I (古 代)	4	旧「東洋史各説 II」	東洋史特講 V (中 世)	4	休 講
東洋史各説 II (古 代)	4	休 講	東洋史特講 VI (中 世)	4	旧「東洋史特講 III・VI」
東洋史各説 III (中 世)	4	旧「東洋史各説 I」	東洋史特講 VII (近 世)	4	休 講
東洋史各説 IV (中 世)	4	休 講	東洋史特講 VIII (近 世)	4	
東洋史各説 V (近 世)	4	旧「東洋史各説 III」	東洋史特講 IX (近 世)	4	休 講
東洋史各説 VI (近 世)	4	休 講	東洋史特講 X (近・現代)	4	
東洋史各説 VII (近・現代)	4		東洋史特講 XI (近・現代)	4	休 講 旧「東洋史特講 IV」
東洋史各説 VIII (周 辺 史)	4		東洋史特講 XII (近・現代)	4	旧「東洋史特講 II」
東洋史各説 IX (周 辺 史)	4	旧「東洋史各説 IV」	東洋史特講 XIII (周 辺 史)	4	旧「東洋史特講 V」
東洋史各説 X (周 辺 史)	4	旧「東洋史各説 II」	東洋史特講 XIV (周 辺 史)	4	旧「東洋史特講 I」
西 洋 史 各 説 I	4	休 講	東洋史特講 XV (周 辺 史)	4	
西 洋 史 各 説 II	4		西 洋 史 特 講 I	4	
西 洋 史 各 説 III	4	休 講	西 洋 史 特 講 II	4	
西 洋 史 各 説 IV	4		西 洋 史 特 講 III	4	休 講
考 古 学 各 説 I	4		西 洋 史 特 講 IV	4	休 講
考 古 学 各 説 II	4		西 洋 史 特 講 V	4	
考 古 学 各 説 III	4	休 講	西 洋 各 国 史 I	4	
考 古 学 各 説 IV	4	休 講	西 洋 各 国 史 II	4	
日本史特講 I (古 代)	4		西 洋 各 国 史 III	4	
日本史特講 II (中 世)	4		西 洋 各 国 史 IV	4	
日本史特講 III (中 世)	4		考 古 学 特 講 I	4	
日本史特講 IV (近 世)	4		考 古 学 特 講 II	4	休 講
日本史特講 V (近 世)	4		考 古 学 特 講 III	4	休 講 } 隔年開講
日本史特講 VI (近 代)	4		考 古 学 特 講 IV	4	
日本史特講 VII (近 代)	4		古 文 書 学	4	

授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考	
古 文 書 講 読 I	4		人 文 地 理 学 概 説	4		
古 文 書 講 読 II	4		地 誌 学	4		
日 本 仏 教 史 I	4	休 講	哲 学 史	4		
日 本 仏 教 史 II	4		歴 史 哲 学	4		
日 本 仏 教 史 III	4	休 講	仏 教 美 術	4		
日 本 文 化 史 I	4	休 講 } 隔 年 開 講	西 域 美 術 史	4		
日 本 文 化 史 II	4		美 術 史 概 説	4		
西 洋 文 化 史 I	4		ラ テ ン 語 特 講	4		
西 洋 文 化 史 II	4		演 習 I	4	※イ ※ロ	
西 洋 文 化 史 III	4	休 講	演 習 II	4		
考 古 学 実 習 (写 真)	4	(注) ※イ	日 本 史 概 説 I (古 代・中 世)	4	(注)	
考 古 学 実 習 (測 量)	4		日 本 史 概 説 II (近 世・近 代)	4		
考 古 学 実 習 (石 器)	4		東 洋 史 概 説 I (古 代・中 世)	4		
考 古 学 実 習 (土 器)	4		東 洋 史 概 説 II (近 世・近 代)	4		
考 古 発 掘 実 習	2		西 洋 史 概 説 I (古 代・中 世)	4		
有 職 故 実	4	休 講	西 洋 史 概 説 II (近 世・近 代)	4		
中 国 歴 史 文 学	4		考 古 学 概 説 I (日 本)	4		
日 本 民 俗 学	4		考 古 学 概 説 II (外 国)	4		
歴 史 地 理 学	4					

※イ. 3年次の履修科目

※ロ. 4年次の履修科目

(注意) 選択科目として履修を希望する者は、必修科目として履修した科目以外を履修すること。

[名称変更科目]

新・旧科目とも同一科目です。旧名称科目の単位を既に修得している場合、新名称科目を履修することはできない。

新名称	旧名称	新名称	旧名称
東洋史特講Ⅰ(古 代)	東洋史特講Ⅶ(古 代 史)	東洋史各説Ⅰ(古 代)	東 洋 史 各 説 Ⅱ
東洋史特講Ⅵ(中 世)	東洋史特講Ⅲ(中 世 史) 東洋史特講Ⅵ(中 世 史)	東洋史各説Ⅲ(中 世)	東 洋 史 各 説 Ⅰ
東洋史特講Ⅺ(近・現代)	東洋史特講Ⅳ(近代・現代史)	東洋史各説Ⅴ(近 世)	東 洋 史 各 説 Ⅲ
東洋史特講Ⅻ(近・現代)	東洋史特講Ⅱ(近世・近代史)	東洋史各説Ⅸ(周辺史)	東 洋 史 各 説 Ⅳ
東洋史特講Ⅼ(周辺史)	東洋史特講Ⅴ(西・中央アジア史)	東洋史各説Ⅹ(周辺史)	東 洋 史 各 説 Ⅱ (59年度 光嶋担当分)
東洋史特講Ⅽ(周辺史)	東洋史特講Ⅰ(中国周辺史)	考古学実習(写 真)	考古学実習Ⅰ(写 真)
		考古学実習(測 量)	考古学実習Ⅲ(測 量)
		考古学実習(石 器)	考古学実習Ⅱ(記 録)
		考古学実習(土 器)	考古学実習Ⅳ(調 査)

社会学科（1年次の秋頃各自専攻コースを届け出ること。）

(1) 社会学コース

必修科目（56単位）

2 年 次 必 修			2・3・4 年 次 必 修		
授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
社 会 統 計 学	4		マスコミュニケーション	4	5科目20単位 選択必修
社 会 学 史	4		産 業 社 会 学	4	
社 会 学 方 法 論	4		都 市 社 会 学	4	
3 年 次 必 修			農 村 社 会 学	4	
社 会 調 査	4		家 族 社 会 学	4	
社 会 調 査 実 習	4		法 社 会 学	4	
演 習 I	4	社会	宗 教 社 会 学	4	
4 年 次 必 修			社 会 心 理 学	4	
演 習 II	4	社会	社 会 病 理 学	4	
卒 業 論 文	8	13頁参照	外 書 講 読 I	4	
			外 書 講 読 II	4	
			社 会 学 特 講 I	4	
			社 会 学 特 講 II	4	
			社 会 学 特 講 III	4	休 講

(注意) 「演習」は3年次で履修した先生のものを、卒業論文の指導を受けることを前提に4年次も継続的に履修すること。

選択科目(16単位以上)(2年次以降の履修科目)

授業科目	単位	備考	授業科目	単位	備考
マスコミュニケーション	4	(注)	図書館学Ⅱ	4	
産業社会学	4		社会福祉援助技術総論	4	旧「社会福祉方法 総論」
都市社会学	4		法学(福祉)	4	旧「社会福祉法制」
農村社会学	4		社会保障論	4	旧「社会保障概論」
家族社会学	4		老人福祉論	4	
法社会学	4		児童福祉論	4	
宗教社会学	4		地域福祉論	4	
社会心理学	4		基礎心理学Ⅰ	4	
社会病理学	4		産業心理学	4	
外書講読Ⅰ	4		グループ・ダイナミックス	4	
外書講読Ⅱ	4		民法	4	
社会学特講Ⅰ	4		労働法	4	
社会学特講Ⅱ	4		行政法	4	
社会学特講Ⅲ	4		経済原論	4	
社会学原論	4		社会学原論	4	
図書館学Ⅰ	4				

(注意) 選択科目として履修を希望する者は、必修科目として履修した科目以外を履修すること。

[名称変更科目]

新・旧科目とも同一科目です。旧名称科目の単位を既に修得している場合、新名称科目を履修することはできない。

新名称	旧名称
社会福祉援助技術総論	社会福祉方法総論
法学(福祉)	社会福祉法制
社会保障論	社会保障概論

(2) 社会福祉コース

必修科目

A. 63年度以降入学生適用（56単位）

2 年 次 必 修			2・3・4 年 次 必 修				
授 業 科 目	単 位	備 考	部 門	授 業 科 目	単 位	備 考	
社会福祉調査論	2		方法・ 援助技術部門	社会福祉援助技術各論ⅠA	4	※ ※ ※ 3科目12単位 選択必修	
社会福祉援助技術総論	4	※		社会福祉援助技術各論ⅠB	4		※
社会福祉援助技術各論ⅡB	4	※		社会福祉援助技術各論ⅡA	4		※
法 学（福 祉）	4	⊗		リハビリテーション論	4		
				社会福祉計画論	4		
				社会福祉運営論	4		
3 年 次 必 修			分 野 部 門	家 族 福 祉 論	4	⊗ ⊗ ⊗ 3科目12単位 選択必修	
演 習 I	4	社会福祉		児 童 福 祉 論	4		⊗
社会福祉調査実習	2			障 害 者 福 祉 論	4		⊗
4 年 次 必 修				老 人 福 祉 論	4		⊗
演 習 II	4	社会福祉		地 域 福 祉 論	4		⊗
卒 業 論 文	8	13頁参照		公 的 扶 助 論	4		⊗
			医 療 福 祉 論	4			
			婦 人 福 祉 論	4			
			保 健 福 祉 論	4			

(注意) 「演習」は3年次で履修した先生のものを、卒業論文の指導を受けることを前提に4年次も継続的に履修すること。

【註】 イ. 本カリキュラムは『社会福祉士国家試験（社会福祉士及び介護福祉士法）』と日本社会事業学校連盟専門職養成基準に基づいている。

ロ. ※印および⊗印は国家試験の受験資格取得に必要な指定科目であり、特に⊗印は指定科目のうちの基礎科目である。

なお、「社会福祉原論（1年次の基礎教育科目）」も指定・基礎科目である。

ハ. 3年次選択科目の「社会福祉援助技術現場実習」および「社会福祉援助技術演習（Ⅰ・Ⅱ）」は、教員1人あたりの担当学生数が20名以下と規定されている。

従って、履修希望者は予め担当教員の面接試験を受け、許可された者のみ履修することができる。

ニ. 「社会福祉援助技術実習」（2年次選択科目）および「社会福祉援助技術現場実習」（3年次選択科目）の履修時には、本学が定める実習費を別に納入しなければならない。

選択科目

A. 63年度以降入学生適用（16単位以上）

2 年 次 選 択			2・3・4 年 次 選 択		
授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
社会福祉援助技術実習	2	※	社会 保 障 論	4	⊗
			社会福祉発達史	4	
3 年 次 選 択			社会福祉外書講読	4	
社会福祉援助技術現場実習	4	※	海外社会福祉論	4	
社会福祉援助技術演習Ⅰ	2	※	社会 学（福祉）	4	⊗
社会福祉援助技術演習Ⅱ	2	※	心 理 学（福祉）	4	⊗
			医 学 一 般	4	※
2・3・4 年 次 選 択			介 護 概 論	4	※
社会福祉援助技術各論ⅠA	4	※	障 害 児 教 育 原 論	4	
社会福祉援助技術各論ⅠB	4	※	障 害 児 教 育 方 法 論	4	休 講
社会福祉援助技術各論ⅡA	4	※	障 害 児 病 理	4	休 講
リハビリテーション論	4		障 害 児 心 理	4	休 講
社会福祉計画論	4		家 族 社 会 学	4	
社会福祉運営論	4		法 社 会 学	4	
家族福祉論	4		産 業 社 会 学	4	
児童福祉論	4	⊗	社 会 病 理 学	4	
障害者福祉論	4	⊗	心 理 検 査 法	4	
老人福祉論	4	⊗	グループ・ダイナミックス	4	
地域福祉論	4	⊗	カ ウ ン セ リ ン グ	4	
公的扶助論	4	⊗	精 神 医 学	4	
医療福祉論	4		精 神 病 理 学	4	休 講
婦人福祉論	4		図 書 館 学 Ⅰ	4	
保健福祉論	4		図 書 館 学 Ⅱ	4	
社会福祉学特講Ⅰ	4		社 会 政 策	4	
社会福祉学特講Ⅱ	4		行 政 法	4	
社会福祉学特講Ⅲ	4		労 働 法	4	
社会福祉学特講Ⅳ	4		民 法	4	
社会福祉学特講Ⅴ	4	休 講	経 済 原 論	4	

（注意） 選択科目として履修を希望する者は、必修科目として履修した科目以外を履修すること。

「社会福祉学特講Ⅰ～Ⅴ」の内容については、講義内容欄を参照のこと。

必修科目

B. 62年度以前入学生適用（56単位）

2 年 次 必 修			2・3・4 年 次 必 修		
授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
社 会 保 障 論	4	◎旧「社会保障概論」	公 的 扶 助 論	4	◎
法 学（福祉）	4	◎旧「社会福祉法制」	障 害 者 福 祉 論	4	◎旧「障害福祉論」
社会福祉援助技術総論	4	※旧「社会福祉方法総論」	老 人 福 祉 論	4	◎
			児 童 福 祉 論	4	◎
3 年 次 必 修			婦 人 福 祉 論	4	旧「母子福祉論」
社 会 福 祉 実 習 I	4	※	医 療 福 祉 論	4	旧「医療社会事業論」
演 習 I	4	社会福祉	地 域 福 祉 論	4	◎
			社 会 福 祉 発 達 史	4	旧「社会福祉事業発達史」
4 年 次 必 修			社 会 福 祉 運 営 論	4	旧「社会福祉管理運営論」
演 習 II	4	社会福祉	社 会 福 祉 外 書 講 読	4	旧「福祉外書講読」
卒 業 論 文	8	13頁参照	リハビリテーション論	4	
			社会福祉援助技術各論ⅡB	4	※旧「社会福祉調査論」

A群（3科目12単位選択必修）

B群（3科目12単位選択必修）

（注意）「演習」は3年次で履修した先生のものを、卒業論文の指導を受けることを前提に4年次も継続的に履修すること。

【註】 イ. 本カリキュラムは昭和63年度から実施される『社会福祉士国家試験（社会福祉士及び介護福祉士法）』と日本社会事業学校連盟専門職養成基準に基づき改定した。

ロ. 社会福祉士国家試験の受験資格取得希望学生は、指定科目をすべて履修できるよう特別の配慮がしてある。

ハ. ※印および◎印は国家試験の受験資格取得に必要な指定科目であり、特に◎印は指定科目のうちの基礎科目である。

なお、「社会福祉原論（1年次の基礎教育科目）」も指定・基礎科目である。

ニ. 選択科目の「社会福祉援助技術演習（Ⅰ・Ⅱ）」および「社会福祉援助技術現場実習」は、教員1人あたりの担当学生数が20名以下と規定されている。

従って、履修希望者は予め担当教員の面接試験を受け、許可された者のみ履修することができる。

〔名称変更科目〕旧名称科目の単位を既に修得している場合、新名称科目を履修することはできない。

新 名 称	旧 名 称	新 名 称	旧 名 称
社 会 福 祉 原 論	—社会福祉概論	婦 人 福 祉 論	—母子福祉論
法 学（福祉）	—社会福祉法制	社 会 保 障 論	—社会保障概論
社会福祉援助技術総論	—社会福祉方法総論	社 会 福 祉 発 達 史	—社会福祉事業発達史
社会福祉援助技術各論ⅠA	—ケースワーク論	社 会 福 祉 運 営 論	—社会福祉管理運営論
社会福祉援助技術各論ⅠB	—グループワーク論	社 会 福 祉 外 書 講 読	—福祉外書講読
障 害 者 福 祉 論	—障害福祉論	社会福祉援助技術現場実習	—社会福祉実習Ⅱ
医 療 福 祉 論	—医療社会事業論	社会福祉援助技術各論ⅡB	—社会福祉調査論

選択科目

B. 62年度以前入学生適用（16単位以上）

2・3・4年次選択			2・3・4年次選択		
授業科目	単位	備考	授業科目	単位	備考
公的扶助論	4	※	介護概論	4	※
障害者福祉論	4	※ 旧「障害福祉論」	基礎心理学Ⅰ	4	昭和64年度より廃講
老人福祉論	4	※	基礎心理学Ⅱ	4	昭和64年度より廃講
児童福祉論	4	※	社会心理学	4	昭和64年度より廃講
婦人福祉論	4	旧「母子福祉論」	心理検査法	4	
医療福祉論	4	旧「医療社会事業論」	グループ・ダイナミックス	4	
地域福祉論	4	※	カウンセリング	4	
社会福祉発達史	4	旧「社会福祉事業発達史」	精神医学	4	
社会福祉運営論	4	旧「社会福祉管理運営論」	精神病理学	4	休講
社会福祉外書講読	4	旧「福祉外書講読」	宗教社会学	4	昭和64年度より廃講
リハビリテーション論	4		産業社会学	4	
社会福祉援助技術各論ⅡB	4	※ 旧「社会福祉調査論」	都市社会学	4	昭和64年度より廃講
社会福祉援助技術各論ⅠA	4	※ 旧「ケースワーク論」	農村社会学	4	昭和64年度より廃講
社会福祉援助技術各論ⅠB	4	※ 旧「グループワーク論」	家族社会学	4	
社会福祉援助技術各論ⅡA	4	※	法社会学	4	
海外社会福祉論	4		社会病理学	4	
社会福祉学特講Ⅰ	4		障害児教育原論	4	
社会福祉学特講Ⅱ	4		障害児教育方法論	4	休講
社会福祉学特講Ⅲ	4		障害児病理	4	休講
社会福祉学特講Ⅳ	4		障害児心理	4	休講
社会福祉学特講Ⅴ	4	休講	図書館学Ⅰ	4	
社会福祉援助技術演習Ⅰ	2	※	図書館学Ⅱ	4	
社会福祉援助技術演習Ⅱ	2	※	社会政策	4	
社会福祉計画論	4		青少年問題研究	4	昭和64年度より廃講
社会福祉調査論	2	新設科目	行政法	4	
社会福祉調査実習	2	休講	労働法	4	
家族福祉論	4		民法	4	
保健福祉論	4		経済原論	4	
社会学(福祉)	4	※			
心理学(福祉)	4	※	3・4年次選択		
医学一般	4	※	社会福祉援助技術現場実習	4	※ 旧「社会福祉実習Ⅱ」

(注意) 選択科目として履修を希望する者は、必修科目として履修した科目以外を履修すること。

(3) 心理学コース

必修科目(36単位)

2 年 次 必 修			3 年 次 必 修		
授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
心 理 学 史	4		心理学研究Ⅲ(実習)	2	1科目2単位 選択必修
心 理 統 計 学	4		心理学研究Ⅳ(実習)	2	
心理学実験(実習)	2		心理学研究Ⅴ(実習)	2	
基 礎 心 理 学 Ⅰ	4	1科目4単位 選択必修	心理学研究Ⅵ(実習)	2	1科目4単位選 択必修(2年次 で必修または選 択として履修し た科目以外を履 修すること。)
基 礎 心 理 学 Ⅱ	4		基 礎 心 理 学 Ⅰ	4	
基 礎 心 理 学 Ⅲ	4		基 礎 心 理 学 Ⅱ	4	
基 礎 心 理 学 Ⅳ	4		基 礎 心 理 学 Ⅲ	4	
基 礎 心 理 学 Ⅴ	4		基 礎 心 理 学 Ⅳ	4	
3 年 次 必 修			基 礎 心 理 学 Ⅴ	4	
心 理 学 研 究 法	4		4 年 次 必 修		
心理学研究Ⅰ(実習)	2		演 習	4	
心理学研究Ⅱ(実習)	2		卒 業 論 文	8	13頁参照

(注意) 「基礎心理学Ⅰ～Ⅴ」の内容については、講義内容欄を参照のこと。

選 択 科 目 (36単位以上) (2年次以降の履修科目)

授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
基礎心理学Ⅰ	4	必修として履修した科目以外を履修すること。	心理学特講Ⅱ	4	
基礎心理学Ⅱ	4		心理学特講Ⅲ	4	
基礎心理学Ⅲ	4		精神医学	4	
基礎心理学Ⅳ	4		精神病理学	4	休講
基礎心理学Ⅴ	4		心身医学	4	休講
心理学研究Ⅰ(実習)	2	3・4年次選択3年次で必修とした科目以外を履修すること。	宗教社会学	4	
心理学研究Ⅱ(実習)	2		産業社会学	4	
心理学研究Ⅲ(実習)	2		家族社会学	4	
心理学研究Ⅳ(実習)	2		社会病理学	4	
心理学研究Ⅴ(実習)	2		マスコミュニケーション	4	
心理学研究Ⅵ(実習)	2		社会福祉援助技術総論	4	旧「社会福祉方法総論」
生理心理学	4		障害者福祉論	4	旧「障害福祉論」
児童心理学	4		老人福祉論	4	
産業心理学	4		児童福祉論	4	
グループ・ダイナミクス	4		民 法	4	
カウンセリング	4		経 済 原 論	4	
心理検査法	4		行 政 法	4	
禅心理学	4		労 働 法	4	
心理学特講Ⅰ	4				

(注意) 2年次における「基礎心理学Ⅰ～Ⅴ」の選択科目としての履修は、3科目以内とする。

〔名称変更科目〕

新・旧科目とも同一科目です。旧名称科目の単位を既に修得している場合、新名称科目を履修することはできない。

新 名 称

旧 名 称

社会福祉援助技術総論 —— 社会福祉方法総論

障害者福祉論 —— 障害福祉論

6. 他学部科目の履修方法

所属している学科以外の学科、もしくは他学部または短期大学の授業科目の履修を希望する学生は、次の要領で履修することができる。

なお、履修に際しては授業科目担当教員の受講許可を必要とする。

イ. 履修科目

他学部・他学科または短期大学に開設されている授業科目のうち、他学部履修科目として公開された授業科目の中から所属学科が履修を認めた授業科目とする。(他学部履修科目一覧表 参照)

ロ. 履修年次

3・4年次生を対象とし、授業科目開設学科の定める年次とする。

ハ. 履修科目数

履修できる科目数は、卒業までに3科目12単位以内とする。

なお、その履修科目は所属学科の履修制限科目数に含める。

ニ. 履修方法

- (1) 「履修要項」の講義内容を参考に、『他学部履修科目授業時間表』の中から履修科目を選択し、『他学部履修願』に必要事項を記入の上、最初の授業に出席し授業科目担当教員の受講許可を受ける。

なお、『他学部履修科目授業時間表』および『他学部履修願』用紙は、教務部窓口で配布する。

- (2) 『単位履修届』に履修科目（他学部履修科目を含む）その他必要事項を記入し、『他学部履修許可書』を添えて、所定の期日に提出すること。

ホ. 履修登録上の注意

- (1) 所属学科の開設科目は、他学部科目として履修登録できない。
- (2) 他学部科目は、『他学部履修科目授業時間表』に記載の専用コード（005…）で登録すること。
- (3) 同一名称（開設学科が異なる）の授業科目は、1科目のみ履修することができる。

ヘ. 再履修

他学部科目が不合格となり再度履修を希望する場合は、改めて前項の手続きを経なければならない。

なお、再履修の取扱いについては『再履修科目の履修方法』(P. 42)を参照のこと。

ト. 単位認定

修得した単位は、所属学科の専門教育科目の選択科目の単位として認定し、卒業所要単位に算入することができる。

他学部履修科目一覧表

開設学科	授 業 科 目	単 位	履修年次	備 考	開設学科	授 業 科 目	単 位	履修年次	備 考
禅学 科	禅学特講Ⅰ	4	3・4		仏教 学 科	印度仏教史	4	3・4	
	禅学特講Ⅱ	4	3・4			中国仏教史	4	3・4	
	禅学特講Ⅲ	4	3・4			日本仏教史	4	3・4	
	禅学特講Ⅳ	4	3・4			日用経典	4	3・4	
	禅学思想史	4	3・4			仏教美術	4	3・4	歴史学科 除く
	哲学史	4	3・4	歴史学科 除く		現代哲学概説	4	3・4	

開講 教科	授 業 科 目	単 位	履 修 年 次	備 考	開講 教科	授 業 科 目	単 位	履 修 年 次	備 考	
国 文 学 科	上 代 文 学	4	3・4	国文学科 除く	商 学 科	財 務 会 計 論	4	3・4		
	中 世 文 学	4	3・4	国文学科 除く		管 理 会 計 論	4	3・4		
	近 世 文 学	4	3・4	国文学科 除く		会 計 監 査 論	4	3・4		
	近 代 文 学	4	3・4	国文学科 除く		商 業 政 策	4	3・4		
	中 国 文 学	4	3・4	国文・歴史学科 除く		貿 易 論	4	3・4		
英 米 文 学 科	英文学特講Ⅰ(英文学16・17c.)	4	3・4	英米文学科 除く	法 律 学 科	マ ー ケ テ ィ ン グ	4	3・4		
	英文学特講Ⅱ(英文学18c.)	4	3・4	英米文学科 除く		原 価 計 算 論	4	3・4		
	英文学特講Ⅲ(詩19・20c.)	4	3・4	英米文学科 除く		労 務 管 理 論	4	3・4		
	英文学特講Ⅳ(小説Ⅰ 19c.)	4	3・4	英米文学科 除く		行 政 法 Ⅱ	4	3・4		
	英文学特講Ⅴ(小説Ⅱ 20c.)	4	3・4	英米文学科 除く		民 法 Ⅳ(1)	4	3・4	社会学科 除く	
	英文学特講Ⅵ(批評19・20c.)	4	3・4	英米文学科 除く		民 法 Ⅳ(2)	4	4		
	英米演劇特講	4	3・4	英米文学科 除く		比 較 憲 法	4	3・4		
	米文学特講Ⅰ(詩)	4	3・4	英米文学科 除く		地 方 自 治 法	4	3・4		
	米文学特講Ⅲ(小説Ⅱ)	4	3・4	英米文学科 除く		経 済 法	4	3・4		
	時 事 英 語	4	3・4	英米文学科 除く		国 際 関 係 論	4	3・4		
地 理 学 科	地 質 学	4	3・4	地理学科 除く	政 治 学 科	西 洋 政 治 史	4	3・4		
	気 候 学	4	3・4	地理学科 除く		宣 伝 広 告 論	4	3・4		
	人 口 地 理 学	4	3・4	地理学科 除く		比 較 社 会 構 造 論	4	3・4		
	応 用 地 理 学 Ⅰ	4	3・4	地理学科 除く		経 営 学 史	4	3・4		
	都 市 地 理 学	4	3・4	地理学科 除く		国 際 経 営 論	4	3・4		
	文 化 地 理 学	4	3・4	地理学科 除く		経 営 統 計	4	3・4		
						保 険 経 営 論	4	3・4		
歴 史 学 科	日 本 仏 教 史 Ⅱ	4	3・4	歴史学科 除く	経 営 学 科	財 務 会 計 論	4	3・4		
	日 本 史 特 講 Ⅶ(近代)	4	3・4	歴史学科 除く		経 営 分 析 論	4	3・4		
	東 洋 史 特 講 Ⅹ(近・現代)	4	3・4	歴史学科 除く		税 務 会 計 論	4	3・4		
	西 洋 文 化 史 Ⅰ	4	3・4	歴史学科 除く		国 際 経 済 論	4	3・4		
	考 古 学 特 講 Ⅲ	4	3・4	歴史学科 除く (隔年開講)		商 業 史	4	3・4		
	歴 史 哲 学	4	3・4	歴史学科 除く		短 大 国 文 科	国 文 講 読 Ⅰ(上代)	2	3・4	国文学科 除く
	哲 学 史	4	3・4	歴史学科 除く			国 文 講 読 Ⅱ(中古)	2	3・4	国文学科 除く
	日 本 民 俗 学	4	3・4	歴史・国文学科 除く			国 文 講 読 Ⅲ(中世)	2	3・4	国文学科 除く
マ ス コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン	4	3・4	社会学科 除く	国 文 講 読 Ⅳ(近世)	2		3・4	国文学科 除く		
産 業 社 会 学	4	3・4	社会学科 除く	国 文 講 読 Ⅴ(近・現代)	2		3・4	国文学科 除く		
都 市 社 会 学	4	3・4	社会学科 除く	国 文 特 講 Ⅴ(近・現代)	4		3・4	国文学科 除く		
社 会 福 祉 発 達 史	4	3・4	社会学科 除く	短 大 英 文 科	英 文 タ イ プ ラ イ テ ィ ン グ Ⅱ		2	3・4	国文学科 除く	
ソ ビ エ ト 経 済 論	4	3・4			時 事 英 語		4	3・4	国文・英文学科 除く	
社 会 政 策	4	3・4	社会学科 除く		計 算 機 言 語 概 論	2	3・4	国文学科 除く		
国 民 所 得 論	4	3・4			臨 床 放 射 線 特 講 Ⅰ	2	3・4	国文学科 除く		
中 国 経 済 論	4	3・4			応 用 計 測 学	2	3・4	国文学科 除く		
ア ジ ア 経 済 論	4	3・4								
経 済 学 科	日 本 経 済 史	4	3・4							
	中 小 企 業 論	4	3・4							

7. 随意科目の履修方法

随意科目は各学科とも2・3・4年次で履修することができるが、卒業に必要な単位に含めることはできない。

授業科目	単位	備考	授業科目	単位	備考	授業科目	単位	備考
宗教学特講Ⅰ	4		美術史概説	4	※ロ	ドイツ語FLL(初級)	2	
宗教学特講Ⅱ	4		東洋思想研究	4	※ハ	ドイツ語FLL(中級)	2	
宗教学特講Ⅲ	4		日本仏教史	4	※イ休講	フランス語FLL(初級)	2	
哲学特講Ⅰ	4		日本文化史Ⅰ	4	休講 隔年 開講 ※ニ	フランス語FLL(中級)	2	
哲学特講Ⅱ	4		日本文化史Ⅱ	4		中国語FLL(初級)	2	
哲学特講Ⅲ	4		英会話Ⅱ	2		中国語FLL(中級)	2	
宗教人類学	4		ドイツ語F	2		スペイン語FLL(初級)	2	
民間信仰論	4		フランス語F	2		スペイン語FLL(中級)	2	
日本宗教文化史	4		中国語F	2		ロシア語FLL(初級)	2	
民衆宗教成立史	4		スペイン語F	2		ロシア語FLL(中級)	2	
歴史哲学	4	※イ	ロシア語F	2		英語(海外演習)	2	※ホ
日本民俗学	4	※ロ	英語LLⅡ	2				

※イ. 歴史学科を除く。 ※ロ. 国文・歴史学科を除く。

※ハ. 国文学科を除く。 ※ニ. 国文・英米文・歴史学科を除く。

※ホ. 「英語(海外演習)」は、ハワイ大学およびカリフォルニア大学で行われる短期留学サマーセミナーで、1年次生より履修できる。なお、詳細については、講義内容(P.75)を参照のこと。

8. 再履修科目の履修方法

イ. 再履修とは、前年度履修登録し単位を修得できなかった授業科目(受験しなかった科目を含む)を翌年度に再度履修することをいう。この場合、授業科目名が同じであれば担当教員に変更があっても同一科目再履修となる。

ロ. 翌年度に再履修しないで翌々年度以降に履修する場合は、新履修とみなして履修しなければならない。(休学の場合も同様)

ハ. 再履修の授業科目は、新履修の授業科目と同時に届け出なければならない。

ニ. 外国語(英米文学科の3Aは除く)・体育実技Ⅰ(59年度以前入学生は体育実技)・保健体育理論および宗教学Ⅰを再履修する場合は、それぞれの「再履修クラス」(本校で授業を行う)で履修すること。

ただし、原級者で同級学年の科目を再履修する場合は正規クラスで履修すること。

ホ. 1年次生は「再履修クラス」を履修することはできない。

※「日本語」・「日本事情」科目の履修方法(昭和63年度以降入学生適用)

『外国人留学生』・『海外帰国子女』学生対象の科目で、原則として1・2年次において履修すること。

○ 日本語科目は、各所属学科の定めるところにより第一外国語または第二外国語として履修すること。修得単位は、外国語科目の卒業所要単位に算入する。

○ 日本事情科目の修得単位は、8科目16単位を超えない範囲で一般教育科目の卒業所要単位に算入する。

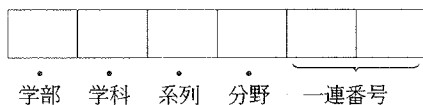
○ 62年度以前入学生で日本語・日本事情科目の履修を希望する学生、または63年度以降入学生で各所属学科の定める一般教育科目および外国語科目の代替できる単位の範囲を超えて履修した場合は、これを随意科目として単位認定する。

(注) 詳細は、『日本語・日本事情科目の履修要項』を参照すること。

※ 授業科目のコード番号について

科目コードは6桁の数字とし、その各位の数字に次の意味を持たせている。

イ. 科目コードの区分



ロ. 学部・学科番号は「学生番号 (P. 55参照)」での説明のとおりである。

ハ. 系列・分野区分

授業科目の区分	系列番号	分野番号
一般教育科目	0	
人文分野		1 (必修)・2 (選択)
社会分野		3
自然分野		4
基礎教育科目	1	2
外国語科目	2	
保健体育科目	4	
実 技		1
講 義		2
専門教育科目	5	
必修科目		1・2・3
選択科目		5・6・7・8
随意科目	7	
再履修科目	8	
課程・講座科目	9	
必修科目		1
選択科目		2
教科科目		3・4・5・6・7・8

Ⅳ 履修科目の登録（履修届）とその作成順序

1. 履修科目の登録

毎学年次所属する学科，学年に開講されている授業科目の中から履修を希望する科目を授業時間表より選び，所定の『単位履修届』用紙に必要事項を記入し届け出ることにより，通年（または半期）授業を受けることができる。

I) 各年次において履修できる最高授業科目数（制限科目数）は次表のとおりとする。

年次	新履修科目数	課程・講座登録者科目数
1 年次	15 科目	——
2 年次	14 科目以内	17 科目以内
3 年次	14 科目以内	17 科目以内
4 年次	1 科目以上	

- イ. 2 年次生以上の再履修科目および体育実技Ⅱ，随意科目は，上記表の制限外とする。
- ロ. 4 年次生は最低 1 科目以上とし，最高制限を設けないが，卒業単位および授業出席に十分ゆとりのある履修をすること。
- ハ. 半期科目も 1 科目とする。

II) 登録上の注意

- イ. 履修届は指定された日時に必ず本人が記入捺印し，学生証提示の上提出すること。（提出しない場合は，学業の意志のないものとして処理する。なお，指定日時に提出できないものは事前に教務部窓口相談すること。）
- ロ. 履修届の日時，場所等についての詳細は原則として新年度成績発表前に教務部掲示板に発表する。
- ハ. 所属する学科以外の授業科目は登録できない。ただし，他学部履修科目（P.40 参照）は，履修登録できる。

また，課程・講座等資格取得のため必要な科目は課程・講座科目として登録できるが，その場合は教職係窓口で受講承認印を受けてから提出すること。

- ニ. 履修登録をしない授業科目はたとえ聴講，受験しても単位は与えない。
- ホ. 授業科目の追加登録は一切認めない。
- ヘ. 『単位履修届』用紙の注意事項をよく読んで間違いのないように登録すること。

3. 履修届（時間割）の作成順序

履修要項・授業時間表により、各自がそれぞれの学年次の履修科目を決定する訳であるが、その場合必修科目、選択必修科目、選択科目の順序で決定すること。また、一般教育科目・外国語科目・保健体育科目および基礎教育科目は1・2年次で所定の単位を修得し、上級学年に進むに従い専門教育科目、課程・講座科目等を多く履修することが望ましい。

1年次生の場合、次表の順序で履修する科目を決定すると容易である。

国文学科

順序	授業区分	授業科目（適用）	科目数
1	一般教育科目	宗教学Ⅰ（必修）	1
2	外国語科目	第1外国語，第2外国語（選択必修）	4
3	保健体育科目	保健体育理論（半期），体育実技Ⅰ（必修）	2
4	基礎教育科目	基礎国語学，基礎国文学，基礎中国文学（必修）	3
5	専門教育科目	国文学講読Ⅰ（必修）	1
6	一般教育科目	人文分野 } 社会分野 } 開講科目の中から4科目選択必修 自然分野 } (不足単位は2年次で履修)	4
1年次履修制限科目数			15

英米文学科

順序	授業区分	授業科目（適用）	科目数
1	一般教育科目	宗教学Ⅰ（必修）	1
2	外国語科目	第1外国語，第2外国語（選択必修）	4
3	保健体育科目	保健体育理論（半期），体育実技Ⅰ（必修）	2
4	基礎教育科目	英または米文学概論，基礎英語ⅠA，ⅠB（必修）	3
5	一般教育科目	人文分野：開講科目の中から2科目を選択必修	2
		社会分野：開講科目の中から2科目を選択必修	2
		自然分野：開講科目の中から1科目を選択必修	1
1年次履修制限科目数			15

地理学科

順序	授業区分	授業科目（適用）	科目数
1	一般教育科目	宗教学Ⅰ（必修）	1
2	外国語科目	第1外国語，第2外国語（選択必修）	4
3	保健体育科目	保健体育理論（半期），体育実技Ⅰ（必修）	2
4	基礎教育科目	基礎自然地理学，基礎人文地理学（必修）	2
5	一般教育科目	人文分野：開講科目の中から1科目を選択必修	1
		社会分野：開講科目の中から3科目を選択必修	3
		自然分野：開講科目の中から2科目を選択必修	2
1年次履修制限科目数			15

歴史学科

順序	授業区分	授業科目（適用）	科目数
1	一般教育科目	宗教学Ⅰ（必修）	1
2	外国語科目	第1外国語，第2外国語（選択必修）	4
3	保健体育科目	保健体育理論（半期），体育実技Ⅰ（必修）	2
4	基礎教育科目	基礎歴史学（必修）	1
5	一般教育科目	人文分野：開講科目の中から2科目を選択必修	2
		社会分野：開講科目の中から3科目を選択必修	3
		自然分野：開講科目の中から2科目を選択必修	2
1年次履修制限科目数			15

社会学科

順序	授業区分	授業科目（適用）	科目数
1	一般教育科目	宗教学Ⅰ（必修）	1
2	外国語科目	第1外国語，第2外国語（選択必修）	4
3	保健体育科目	保健体育理論（半期），体育実技Ⅰ（必修）	2
4	基礎教育科目	社会学概論，社会福祉原論，心理学概論（必修）	3
5	一般教育科目	人文分野 社会分野 自然分野 } 開講科目の中から5科目を選択必修 （不足単位は2年次で履修）	5
1年次履修制限科目数			15

V 試験および成績評価

1. 定期試験

- イ. 前期で終了する授業科目の定期試験は7月に、後期および通年の授業科目の定期試験は1月から2月にかけて実施される。
- ロ. 正規の手続きを経て履修登録した授業科目のみ受験できる。
- ハ. 筆記試験のかわりにレポートの提出を課せられた場合は、論題、枚数、提出日時、提出先等をよく確認の上、表紙に科目名・担当教員名・論題・学科・学年・学生番号・氏名を明記し、読み易くとした上で提出すること。
なお、指定された日時に遅れた場合は一切受理しない。
- ニ. 試験時間割は、原則として平常の講義の時限とし、時間および教場等については掲示で発表する。
(注意) 試験場は平常の授業教場と異なる。特に集中試験(同一科目を一括して行う試験)は平常時間割と曜日、時限とも変わるので試験時間および教場割等については掲示に十分注意すること。

2. 中間試験

授業科目担当教員が中間考査として任意に行う試験(レポート提出を含む)のことをいう。従って試験は平常の授業に準じて行う。

3. 追・再試験

I) 追試験

- イ. 追試験は、やむを得ない理由があり定期試験(期間外実施・レポート提出を含む)を欠試した場合受験することができる。その場合、欠試者は所定の欠試届にその理由を記入し、自分の全ての試験終了後直ちに届け出ること。(締切日は掲示板参照)
- ロ. 追試験料は徴収しない。

II) 再試験

- 1・2・3年次生については、再試験は一切実施しない。
卒業年次生に限り下記により実施する。
- イ. 卒業年次に履修登録した科目の定期試験(期間外実施・レポート提出を含む)を受験し、不合格となった科目は願い出により受験することができる。
- ロ. 受験料は1科目500円とする。

III) 体育・外国語科目・その他

- イ. 体育実技、演習、その他実験実習を伴う科目は追・再試験ともこれを行わない。
- ロ. 外国語科目についても追・再試験は行わない。ただし、定期試験を欠試した者は当該科目試験終了後直ちに担当教員に申し出て指導を受けること。

4. 受 験 心 得

- イ. 当該受験科目を履修登録していること。
- ロ. 指定された日・時・試験場（教場）で受験すること。
- ハ. 学生証を携帯していない学生は受験できない。
- ニ. 学生証は試験中、机上に提示しておくこと。
- ホ. 試験開始後30分を超えて遅刻した学生は受験できない。
- ヘ. 試験開始後30分を経過し、受験者名簿に氏名を記入するまで退場できない。
- ト. 学部・学科・学年・学生番号・氏名の記入はペンまたはボールペン書きとする。
- チ. 無記名の答案は無効となるので注意すること。
- リ. 配布された答案用紙は必ず提出し、試験場外へ持ち出してはならない。
- ヌ. 試験場（教場）においては、すべて試験監督員の指示に従うこと。
- ル. 試験場（教場）の秩序を乱したり、試験実施の妨げとなる行為をした場合は退場を命じる。
- ヲ. 試験において下記のような不正受験行為があった場合は、「不正受験行為者処分規程」により処分されるので注意すること。
 - (1) 代人として受験したり、または代人受験を依頼すること。
 - (2) 使用が許可されていないノート・テキスト・参考書・六法・辞書等を使用すること。
 - (3) 所持品その他への事前の書き込みや机・壁等への書き込みを利用すること。
 - (4) 他人の答案をのぞき見て書き写したり、書き写しさせること。
 - (5) 私語及び動作・メモその他の方法で連絡をしたり、連絡を受けること。
 - (6) 試験中にノート・テキスト・参考書・六法・辞書等を貸借すること。
 - (7) 答案用紙をすり替えたり、すり替えさせること。
 - (8) その他上記に類似する行為をすること。
- ワ. 学生証を忘れた場合は仮受験票により受験することができる。仮受験票の発行については、教務部窓口にて手続きをすること。

5. 成績評価・単位認定

- イ. 定期試験の成績は、優（100点～80点）、良（79点～70点）、可（69点～60点）および不可（59点～0点）とし、優、良、可を合格、不可は不合格として発表する。
なお、素点に関する問い合わせは一切受付ない。
- ロ. 所定の授業時間数の3分の2以上授業に出席し、合格の成績評価を得た授業科目については所定の単位を認定する。
- ハ. 追試験の成績評価は定期試験に準ずる。
- ニ. 再試験（4年次生のみ）の成績評価は良（70点）以下とする。

6. 試 験 時 間

定期試験実施時間（前期・後期とも）		追・再試験実施時間（前期）	追・再試験実施時間（後期）
1時限 9：30～10：30	4時限 14：30～15：30	1時限 16：10～17：00	1時限 9：30～10：20
2時限 11：00～12：00	5時限 15：50～16：50	2時限 17：10～18：00	2時限 10：50～11：40
3時限 13：00～14：00	6時限 17：10～18：10		3時限 13：00～13：50
			4時限 14：10～15：00
			5時限 15：20～16：10

試験実施規程（抜粋）が掲載されている（P.59）ので参照のこと。

VI 進級について

上級学年に進級するためには、進級規程に定める各学年所定の単位を修得していなければならない。修得した単位数により進級および注意進級とし、基準単位数に達しない場合は原級留置とする。

○ 注意進級とは、進級の基準単位数に達していないが教育指導のうえ進級を認めるものである。

これによる進級者は、修得単位数が少ないために次年度に原級留置となったり、卒業が困難となる場合もあるので、十分反省して勉学に努める必要がある。

○ 修得単位数が注意進級の基準単位数に達しない場合は、原級とし、同一学年に留め置くものとする。

修得単位基準表（単位は卒業所要単位のうちとする。）

	1年次から2年次	2年次から3年次	3年次から4年次
進 級	30単位以上	60単位以上	90単位以上修得し、一般教育科目・保健体育科目・外国語科目を全て修得していること。
注 意 進 級	29～20単位	59～50単位	90単位以上修得しているが、一般教育科目・保健体育科目・外国語科目が1～12単位不足している場合。
原 級 留 置	19単位以下	49単位以下	89単位以下。または90単位以上修得しているが、一般教育科目・保健体育科目・外国語科目が、13単位以上不足している場合。

進級規程が掲載されている（P.61）ので参照のこと。

Ⅶ クラス制およびクラス主任

- イ. 学科の実情に応じて、1・2・3年次にクラス主任若干名をおいている。
- ロ. クラス主任は、学生の学習指導、生活相談等に当たっているから、これらのことについては遠慮なく相談されたい。

Ⅷ 教職課程・資格講座

文学部で開講されている資格取得のための課程・講座は、次表のとおりである。

課程・講座名	開講年次	備 考
教 職 課 程	2年次より	教員資格取得のためのもので教職課程の所定単位を修得した者は、中学校1級・高等学校2級の各普通免許が取得できる。
学校図書館司書教諭講座	〃	学校教育を充実することを目的とする学校図書館の専門職としての資格。
博 物 館 学 講 座	〃	社会教育の場として博物館が十分に利用され、その目的、使命を達成するための学芸員の資格。
社会福祉主事 社会福祉士基礎 講座	〃	社会福祉を増進させるための機関等における専門職としての資格。(社会福祉士の基礎科目も修得可能)
社会教育主事講座	〃	社会教育活動を行う者に対し、求めに応じて専門的・技術的な助言と指導を与える教育専門職としての資格。

教職課程・資格講座の履修希望者は、1年次の秋(11月中旬)に実施するガイダンスに出席し、教職課程・資格講座の「履修要項」および「課程・講座受講登録カード」を受け取ること。(授業科目の講義内容は履修要項の講義内容を参照すること。)

なお、ガイダンスの日時等については、実施1カ月前より掲示板で、その旨指示する。

IX 事務取扱いについて

1. 成績発表・成績証明書

- イ. 前期終了科目・後期および通年授業科目の定期試験の結果は書類で発表する。
- ロ. 成績の質疑については、成績質疑応答期間内に教務部窓口にて相談すること。ただし、評価の質疑については直接担当教員に申し出て相談すること。
- ハ. 成績発表を受けるときは必ず学生証を持参すること。
- ニ. 成績証明書は、卒業年次生以外は原則として発行しない。

2. 授業時間

授業時間は、次表のとおりである。

時 限	第1時限	第2時限	第3時限	第4時限	第5時限
時 間	9:00~10:30	10:40~12:10	12:50~14:20	14:30~16:00	16:10~17:40

3. 事務室の事務受付時間

- イ. 事務受付時間は、9時より16時30分（土曜日は12時）までとする。ただし、昼食休憩時間は12時から13時とし、この時間は事務受付を休止する。
- ロ. 履修届提出・成績発表・各申込等の受付は9時30分より16時までとする。

4. 休 講

- イ. 休講は担当教員より連絡があり次第、休講掲示板（教務部事務室前ロビー）に掲示する。従って、教場の黒板に書いて休講の連絡はしない。始業時間より30分以上経過しても連絡のない場合は、教務部⑦番窓口申し出てその指示を受けること。
- ロ. 運輸機関のストライキによる休講措置については午前7時現在、JR東京近郊区間（山手・中央・京浜東北）もしくは東急がストライキを行っている場合の授業は全面休講とする。

5. 掲 示

学生に対する公示・告示および学習上周知を要する事項は、すべて掲示板に発表するので、登校・下校の際は、必ず掲示板を見ること。また、学生個人に対する伝達事項も、掲示または、郵便・電話で連絡するので遅滞なくその指示に従うこと。

6. 問い合わせ

事務室への電話による質問（行事予定、休講、授業、学籍、試験、成績、その他）は、間違いを生じやすく事務に支障も生ずるので一切応じない。必要があるときは、必ず登校のうえ、掲示板を見るか、関係事務室窓口で問い合わせること。

X 学籍について

1. 修業年限と在学年数

- イ. 修業年限とは、大学の教育課程修了に必要な期間のことをいう。(本大学の修業年限は4年)
- ロ. 在学年数とは、大学において学生の身分を有していられる期間のことで、本大学の在学年数は休学期間を除き7年と定めている。

2. 休 学

傷病その他の事由で引き続き2か月以上修学することができないときは、理由を付し、保証人連署のうえ願い出て休学の許可を得なければならない。

I) 休学の手続き

- イ. 休学願に添えて次の書類を提出すること。
 - (1) 傷病の場合は、医師の診断書
 - (2) 外国で修学する場合は、修学先・修学目的・在留期間を証明する書類
 - (3) その他の理由の場合は、保証人連署の休学を必要とする理由書
- ロ. 休学の手続き期限は当該年度の11月30日までとする。
- ハ. 休学理由が休学許可日より2か月未満の期間内に消滅したときは、保証人連署の休学取り下げ願により休学を取り消すことがある。

II) 休学の期間

- イ. 休学の期間は1学年を区分とし、休学の許可を受けた日から当該年度の3月31日までとする。
- ロ. 引き続き休学を要する特別な事情があるときは、許可を得てさらに1年に限り休学することができる。
- ハ. 休学期間は通算4年を超えることはできない。
- ニ. 休学が許可された年度は在学年数に算入しない。

III) 休学する場合の学費

休学を願い出る者は当該期の学費を納入していること。

休学願提出日	学 費
4月1日～9月30日	前期分納入済のこと。(後期分免除)
10月1日～11月30日	前期分・後期分共納入のこと。

IV) 休学原級

休学を許可された者は、翌年度は現学年に原級留置とする。

3. 復 学

- イ. 休学した者が復学する場合は、前期学費を納入の上、保証人連署の復学願を4月10日までに提出し許可を得ること。
- ロ. 傷病で休学した場合は、通学可能なことを証明する医師の証明書を添えること。

4. 退 学

傷病その他やむを得ない事由で退学しようとする者は、所定の退学願を提出し許可を得ること。

イ. 退学願は、退学理由を付し保証人連署で願い出ること。

ロ. 退学願提出時に学生証を返却すること。

ハ. 退学年月日は次のとおりとする。

(1) 当該期学費納入者……退学願提出日

(2) 当該期学費未納者……学費納入済学期の最終日

5. 除 籍

次の事項に該当する者はこれを除籍する。

イ. 在学年数を越えた者

ロ. 休学期間を超えた者

ハ. 学費の納付を怠り、督促を受けてもなお納入しない者

6. 懲 戒

イ. 本大学の学則等に違反し、その他学生の本分に反する行為があった場合、情状により譴責、停学、退学の処分をする。

ロ. 退学処分は次の事項のいずれかに該当する者に対して行う。

(1) 性行不良で、改善の見込みがないと認められる者

(2) 学力劣等で成業の見込みがないと認められる者

(3) 正当の理由がなくて出席常でない者

(4) 本大学の秩序を乱し、その他学生としての本分に反した者

7. 編 入 学 (学士入学)

本大学卒業生(卒業見込者)で卒業学部他学科または他学部学科の3年次または2年次に編入学を希望する者があるときは、欠員のある場合に限り、選考の上入学を許可する。

イ. 3年次編入を出願していても、志望学科の単位認定の結果、2年次に入学を許可することがある。

ロ. 3年次または2年次に編入学を許可された者は、既にそれぞれ2年または1年の在学年数を経たものとする。

8. 再 入 学

本大学を退学した者または除籍された者で、再入学を希望する者があるときは選考の上許可することがある。

イ. 入学後1年未満で退学した者または除籍された者は対象としない。

ロ. 退学または除籍後3年以内の者とする。(出願時を基準とする)

ハ. 再入学者の在学年数は、従前在学した年数と通算し7年以内とする。

9. 転部・転科

本大学の学生で、同一学部他学科または他の学部学科に転科もしくは転部を希望する者があるときは、選考の上許可することがある。(学科により異なる)

転部・転科した者の在学年数は、転部・転科した年次にかかわらず、入学の時期から通算する。

10. 留 学

本大学の学生で、外国の大学または短期大学の授業科目の履修を希望する者があるときは、教授会の議を経てこれを許可することがある。

- イ. 履修した授業科目の修得単位については、本大学において修得したものとみなし、卒業所要単位に算入することができる。
- ロ. 留学期間は在学年数に算入する。

11. 学生氏名・保証人

- イ. 届け出の学生氏名は、戸籍抄本または外国人登録済証明書に記載されたとおりとする。
- ロ. 外国人登録済証明書に記載されている通称名の使用を希望する者は、願い出て許可を得ること。
- ハ. 通称名使用の許可を得た者は、本大学在学中一貫して通称名を使用することとし、本大学発行の証明書、成績表、各種名簿等はすべて通称名で表示する。
- ニ. 保証人は日本国内に在住する親権者もしくはそれに準ずる者で、独立の生計を営む成年者とし、在学中の一切の事項について保証する者とする。
- ホ. 学生・保証人の氏名住所等に変更があったときは、すみやかに所定の変更届を提出すること。

12. 学 生 番 号

- イ. 学生番号は在学中はもとより、卒業後も不変の本人固有番号となるので正確に覚えておくこと。
- ロ. 学生番号は6桁の数字からなっていて、その各位の数字に次の意味を持たせてある。

学生番号区分

⋮	⋮	⋮	└──────────┘		
学	学	人	一		
部	科	学	連		
		(西	番		
		暦	号		
		度			

学部・学科の番号

学 部 ・ 学 科 名	学部番号	学科番号
仏 教 学 部	1	
禅 学 科		1
仏 教 学 科		2
文 学 部	2	
国 文 学 科		1
英 米 文 学 科		2
地 理 学 科		3
歴 史 学 科		4
社 会 学 科		5
経 済 学 部	3	
経 済 学 科		1
商 学 科		2
法 学 部	4	
法 律 学 科		1
政 治 学 科		2
経 営 学 部	5	
経 営 学 科		1

(例) 1988年度入学・文学部国文学科 12番の場合

2	1	8	0	1	2
⋮	⋮	⋮	└──────────┘		
文学部	国文学科	一九八八年入学	12番		

XI 既修得単位の認定について

イ. 新たに第1年次に入学した者の既修得単位の認定

- (1) 他の大学または短期大学（外国の大学または短期大学を含む）を卒業または中途退学し、新たに本学の第1年次に入学した者については、学則第30条の2により、従前在学した大学等において既に修得した授業科目の単位のうち、一般教育科目、外国語科目および保健体育科目については、合計30単位を超えない範囲で本大学において修得した単位として認定することができる。
- (2) 既修得単位の認定を受けようとする者は、入学した年度の4月2日までに既修得単位認定申請書（所定様式）に成績（単位修得）証明書を添えて、教務部長に願い出なければならない。
- (3) 既修得単位の認定は、教務部長を経て当該教授会がこれを行う。

ロ. 編入学者の単位認定

従前在学中に修得した授業科目の単位のうち、出願時に提出された成績（単位修得）証明書をもとに当該教授会で認定した授業科目の単位は、卒業所要単位の算入される。

ハ. 再入学者の単位認定

従前在学中に修得した授業科目の単位については、再入学時に提出された成績（単位修得）証明書をもとに当該教授会でこれを認定する。

ニ. 転部・転科者の単位認定

従前在学中に修得した授業科目の単位のうち、出願時に提出された成績（単位修得）証明書をもとに当該教授会で認定した授業科目の単位は、卒業所要単位の算入される。

この単位認定については、昭和62年度新入生、編入学者、再入学者および転部・転科者から適用する。

XII 届書・願書について

(教務部扱いのもの)

種 類	要 領 (必要書類)	本人印	保証人印	取扱窓口	
届	単 位 履 修 届	<ul style="list-style-type: none"> ・所定用紙あり。 ・各年度に単位修得しようとする授業科目を指定期日に必ず届け出ること。 	要	不要	掲示
	欠 試 届	<ul style="list-style-type: none"> ・所定用紙あり。 ・本人履修全科目の試験終了後直ちに届け出ること。(締切日は掲示参照) 	不要	不要	⑨
	卒業論文論題届	<ul style="list-style-type: none"> ・所定用紙あり。 ・掲示板にて指示。 	要	不要	⑥
	改 氏 名 届	<ul style="list-style-type: none"> ・所定用紙あり。 ・戸籍抄本添付。 ・変更後1週間以内。 	要	不要	⑤
	本 籍 地 変 更 届	<ul style="list-style-type: none"> ・所定用紙あり。 ・戸籍抄本添付。 ・変更後1週間以内。 	要	不要	
	保 証 人 変 更 届	<ul style="list-style-type: none"> ・所定用紙あり。 ・在学誓書(保証書)添付。 ・変更後1週間以内。 	要	要	
	保証人住所変更届	<ul style="list-style-type: none"> ・所定用紙あり。 ・変更後1週間以内。 	要	不要	
	死 亡 届	<ul style="list-style-type: none"> ・所定用紙あり。 ・死亡診断書添付。 	/	要	
願 書	休 学 願	<ul style="list-style-type: none"> ・所定用紙あり。 ・傷病による場合は、医師の診断書添付。 ・外国で修学する場合は、修学先・修学目的・在留期間を証明する書類。 ・その他の場合は、保証人連署の理由書。 	要	要	⑤
	復 学 願	<ul style="list-style-type: none"> ・所定用紙あり。 ・傷病による休学をした場合は、医師の通学可能である証明書添付。 ・4月10日までに提出すること。 	要	要	
	退 学 願	<ul style="list-style-type: none"> ・所定用紙あり。 ・学生証添付。 	要	要	

XIII 各種証明書取扱い窓口

証 明 書 名	取 扱 窓 口	料 金
成績・卒業見込証明書（卒業年次生のみ）	教務部④番	1通 100円 (英文証明書) 1通 300円)
成績証明書		
卒業証明書		
学士証明書		
教員免許状取得見込証明書		
単位修得証明書 (教職, 司書教諭, 学芸員, 社会教育, 社会福祉)		
一般教養科目修了（見込）証明書		
その他の諸証明書		
人物考査書	就 職 部	
健康診断証明書	学 生 部 ③ 番	
在学証明書	学 生 部 ② 番	
学 割		無 料
通学証明書		無 料

※ 経理部前備付けの申込用紙に必要事項を記入し、手数料分の証紙を貼付（郵送料も同様）の上、取扱い窓口に申し込むこと。発行は原則として3日後。

教務部取扱い証明書は、6月下旬から9月中旬までと3月は大変混雑するので、掲示に注意し、十分余裕をもって申し込むこと。

試験実施規程（抜粋）

（昭和59年7月13日制定）

（目的）

第1条 この規程は、駒沢大学（以下「学部」という。）、駒沢短期大学（以下「短大」という。）、駒沢大学大学院（以下「大学院」という。）の各学則に規定する試験の実施について必要な事項を定めることを目的とする。

（試験の実施）

第2条 試験は、当該教授会の責任のもとに実施される。

（試験の種類及び実施の時期）

第3条 試験の種類は、次のとおりとする。

- (1) 定期試験 履修した授業科目修了の認定をするために前期あるいは後期の所定期間内に行われる試験をいう。
- (2) 追加試験（以下「追試験」という。） 病気その他やむを得ない理由で定期試験を受けることができなかった者について行う試験をいう。
- (3) 再試験 第1号の試験を受験し不合格となった者について、臨時に行う試験をいう。
- (4) 中間試験 第1号、第2号、第3号の試験とは別に平常の授業時間帯に授業科目担当教員が中間考査として行う試験をいう。

2. 試験の実施時期については、行事予定表をもってこれを定める。ただし、中間試験については、この限りではない。

3. 第1項第2号及び第3号に規定する追試験及び再試験は、次の各号の一に該当するときは、これを実施しない。

- (1) 学部1・2・3年次生の再試験
- (2) 学部外国語科目、体育実技、演習、その他実験実習をともなう授業科目の追試験及び再試験
- (3) 短大体育実技の追試験及び再試験

（試験の方法）

第4条 試験は、筆記、口述又は実技によって行う。ただし、授業科目担当教員の決定により、レポート提出をもってこれに代えることができる。

（試験時間）

第5条 試験時間は、原則として第1部は60分、第2部は50分とする。ただし、追試験及び再試験については50分とする。

（受験資格）

第6条 授業科目修了の認定にかかわる定期試験を受験するためには、次の各号の条件を満たしていなければならない。

- (1) 当該授業科目を履修登録していること。
- (2) 授業料その他の学費を納入していること。

2. 前項の条件を満たしているときであっても、当該授業科目について、出席すべき時間数の3分の1以上欠席している者については、当該授業科目の受験資格が認められないことがある。
3. 追試験を受験するためには、定期試験終了後速やかに当該授業科目の欠試験及び追試験受験願を提出し、許可を受けなければならない。
4. 再試験を受験するためには、所定の受験料を添えて再試験受験願を提出し、許可を受けなければならない。

(受験資格の喪失)

第7条 次の各号の一に該当するときは、当該授業科目試験の受験資格を失う。

- (1) 学生証を携帯していないとき。
- (2) 試験開始後30分を超えて遅刻したとき。
- (3) 試験監督員の指示に従わないとき。
- (4) 不正受験行為を指摘されたとき。

(受験心得)

第8条 試験を受ける者は、別に定める受験心得を遵守しなければならない。

(無効答案)

第9条 次の各号の一に該当する答案は、無効とする。

- (1) 受験資格を有しない者の答案
- (2) 不正受験行為により作成された答案
- (3) 氏名、学生番号が記載されていない答案
- (4) 指定された時間、指定された場所に提出されない答案
- (5) 所定用紙以外の用紙を用いた答案

(成績評価及び単位認定)

第10条 試験の成績は、優(100点~80点)、良(79点~70点)、可(69点~60点)、不可(59点~0点)の4段階に分け、優、良、可を合格とし、不可を不合格とする。ただし、再試験の成績は、良(70点)、可、不可のいずれかとする。

2. 合格した授業科目については、所定の単位を修得したものと認める。

(不正受験行為者の処分)

第13条 不正受験行為者の処分については、別に定める。

(事務所管)

第14条 試験実施にかかわる事務は、教務部(教務課、第二学事課)の所管とする。

附 則

この規程は、昭和59年7月13日から施行する。

進 級 規 程

(昭和51年4月1日制定)

昭和62年2月23日改正

(目 的)

第1条 この規程は、駒沢大学学則第14条に基づき、学生が上級学年に進級するために必要な修得単位数の基準を定めることを目的とする。

(進級基準単位数)

第2条 学生が上級学年に進級するときは、卒業所要単位数のうち、次の各号の一に該当する単位数を修得していなければならない。

- (1) 1年から2年に進級するときは、30単位以上修得していること。
- (2) 2年から3年に進級するときは、60単位以上修得していること。
- (3) 3年から4年に進級するときは、仏教学部、文学部、経済学部、経営学部、経済学部第2部、法学部第2部、経営学部第2部においては90単位以上、法学部においては99単位以上を修得していること。ただし、一般教育科目、外国語科目及び保健体育科目の所要単位をすべて修得していなければならない。

(注意進級基準単位数)

第3条 前条の規定にかかわらず、卒業所要単位数のうち、次の各号の一に該当する単位数を修得しているときは、本人に注意を喚起し、上級学年への進級を認めることができる。

- (1) 1年から2年への進級を認めるときは、20単位以上修得していること。
- (2) 2年から3年への進級を認めるときは、経営学部及び経営学部第2部においては48単位以上、他の学部においては50単位以上修得していること。
- (3) 3年から4年への進級を認めるときは、次に掲げる条件の一に該当していること。
 - ア. 仏教学部、文学部、法学部第2部においては、90単位以上を修得し、かつ、一般教育科目、外国語科目及び保健体育科目の未修得単位の合計が12単位以下であること。
 - イ. 経済学部及び経済学部第2部においては、90単位以上を修得し、かつ、一般教育科目、外国語科目及び保健体育科目の未修得単位の合計が16単位以下であること。
 - ウ. 法学部においては、99単位以上を修得し、かつ、一般教育科目、外国語科目及び保健体育科目の未修得単位の合計が12単位以下であること。
 - エ. 経営学部においては86単位以上、経営学部第2部においては84単位以上を修得し、かつ、外国語科目及び保健体育科目の未修得単位の合計が12単位以下であること。

(原 級)

第4条 修得単位数の合計が、注意進級基準単位数に達しない者は、原級に留め置くものとする。

附 則

省 略

講 義 内 容 目 次

一般教育科目（共通）	（66）
保健体育科目（共通）	（71）
随 意 科 目（共通）	（72）
国 文 学 科	（76）
英 米 文 学 科	（86）
地 理 学 科	（95）
歴 史 学 科	（104）
社 会 学 科	（118）
他学部履修科目（共通）	（135）

〔 卷 末 〕

教職および資格講座

一般教育科目(共通)

人文分野

宗教学 I (佐々木 宏幹) ……66

宗教学 I (洗 建) ……66

宗教学 I (山岡 隆晃) ……66

宗教学 I (脇本 平也) ……66

宗教学 I (再クラス) (岡部 和雄) ……66

宗教学 I (再クラス) (前期) (奈良 康明)
(後期) (阿部 慈園) ……66

宗教学 II (青龍 宗二) ……66

宗教学 II (峰岸 孝哉) ……67

宗教学 II (河村 孝道) ……67

宗教学 II (若月 正吾) ……67

宗教学 II (石井 修道) ……67

哲学 (久保 陽一・中村 友太郎) ……67

論理学 (円谷 裕二・丸山 豊樹) ……67

歴史学 (廣瀬 良弘) ……67

文学 (田中 徳定) ……68

芸術学 (日本美術) (林 良一) ……68

芸術学 (西洋美術) (宮崎 克己) ……68

社会分野

法学憲法 (和知 恵一) ……68

法学憲法 (鶏徳 啓登) ……68

経済学 (荒木 勝啓) ……68

政治学 (小林 正敏) ……68

社会学 (橋爪 敏) ……69

文化人類学 (加藤 正春) ……69

地理学 (中俣 均) ……69

地理学 (矢野 陽子) ……69

自然分野

自然科学概論 (宇和川 正人) ……69

自然科学概論 (斎藤 浩三) ……69

数学 (斎藤 浩三) ……69

生物学 (清水 善和) ……70

生物学 (本間 暁) ……70

心理学 (横山 剛) ……70

心理学 (坂原 明) ……70

人類学 (斎藤 成也) ……70

地学 (中島 義一) ……70

化学 (高木 正博) ……70

物理学 (篠原 正雄) ……70

保健体育科目(共通)

保健体育理論 (三幣 晴三) ……71

保健体育理論 (村松 誠) ……71

保健体育理論 (森本 葵) ……71

保健体育理論 (再クラス) (三幣 晴三) ……71

保健体育理論 (再クラス) (森本 葵) ……71

随意科目(共通)

宗教学特講 I (松田 文雄) ……72

宗教学特講 II (脇本 平也) ……72

宗教学特講 III (洗 建) ……72

哲学特講 I (東洋) (篠原 壽雄) ……72

哲学特講 II (西洋) (國嶋 一則) ……72

哲学特講 III (西洋) (久保 陽一) ……72

宗教学人類学 (佐々木 宏幹) ……72

民間信仰論 (谷口 貢) ……73

日本宗教文化史 (脇本 平也) ……73

民衆宗教成立史 (洗 建) ……73

歴史哲学 (山下 太郎) ……73

美術史概説 (林 良一) ……73

東洋思想研究 (館野 正美) ……73

日本文化史 II (有元 修一) ……73

日本民俗学 (渡邊 欣雄) ……73

英会話 II (J. K. ウェルズ・J. G. ギャリソン・
T. J. コーガン・P. A. ベンディネリィ) ……73

英語 LL II (T. J. コーガン・大庭 直樹) ……74

ドイツ語 F (吾妻 雄次郎) ……74

ドイツ語 FLL (初級) (松本 洋子) ……74

ドイツ語 FLL (中級) (野島 利彰) ……74

フランス語 F (前田 祝一) ……74

フランス語 FLL (初級) (小玉 齊夫) ……74

フランス語 FLL (初級) (M. マルタン) ……74

フランス語 FLL (中級) (M. マルタン) ……74

中国語 F (釜屋 修) ……74

中国語 FLL (初級) (果 荃英) ……75

中国語 FLL (中級) (羅 濂明) ……75

スペイン語 F (前期) (細川 幸夫)
(後期) (佐藤 玖美子) ……75

スペイン語 FLL (初級) (J. ナバロ) ……75

スペイン語 FLL (中級) (J. ナバロ) ……75

ロシア語 F (杉山 秀子) ……75

ロシア語 FLL (初級) (野村 タチアナ) ……75

ロシア語 FLL (中級) (野村 タチアナ) ……75

英語 (海外演習) ……75

一般教育科目（共通）

人文分野

宗教学Ⅰ

佐々木 宏 幹

講義はつぎのように展開される。(1)宗教は諸文化のなかでどのような位置を占め、また社会的にどのような役割を果たしているか、(2)宗教をめぐるどのような学説が唱えられたか、(3)世界にはどのような宗教形態があるか、(4)仏教はどのような特色をもつ宗教か、(5)日本の宗教と日本人との関係はどうなっているか。具体的な事例を挙げて考察する。

〔教科書〕 『宗教学ハンドブック』（世界書院）
¥2,000

宗教学Ⅰ

洗 建

宗教はあらゆる文化の基底をなしている。特定の信仰をもっていないか、われわれはそのような宗教文化の中で生きている。宗教は文化において、社会において、人生において、どのように表われてくるのだろうか。身近な宗教現象を通じて、宗教の意義や役割を理解することを目指したい。

〔教科書〕 『宗教学ハンドブック』（世界書院）
¥2,000

宗教学Ⅰ

山岡 隆 晃

宗教は人類に普遍的な文化現象であるとの認識に立ち、宗教の社会的な意味や構造・機能について概観する。さらに、宗教文化の基層をなしているシャーマニズムなどの諸信仰や外来宗教としての仏教、及び両者の関係など、わが国における宗教現象の個別的問題についても考えてみたい。

〔教科書〕 『宗教学ハンドブック』（世界書院）
〔参考書〕 『シャーマニズム』（中公新書）
『日本宗教』（大明堂）

宗教学Ⅰ

脇本 平 也

人間生活のあるところには必ず何らかの形の宗教現象が見られる。これは古今東西を通じて変らぬ一つの事実である。それでは、宗教はいかにして始まったのか、その歴史はどのように展開したか、また宗教にはどのような種類のものがあるか、といった疑問が続いて出てくることになる。これらの疑問にできるだけ体系的に答える努力を試みたい。

〔教科書〕 『宗教学ハンドブック』（世界書院）
〔参考書〕 脇本平也『宗教を語る』（日新出版）

宗教学Ⅰ（再クラス）

岡部 和 雄

前半では宗教とは何かという問題について、現代のアクチュアルなテーマをとりあげて具体的に考えていく。また後半では仏教の的をしぼり、その基本的輪郭を明らかにしようと思う。

〔参考書〕 『宗教学ハンドブック』（世界書院）
『仏教の歩んだ道Ⅰ』（東京書籍）

宗教学Ⅰ（再クラス）

（前期）奈 良 康 明
（後期）阿 部 慈 園

人間生活における宗教、仏教の意味、機能および構造を「宗教文化史」研究の枠組の中であきらかにしてゆきたい。出来るかぎり、現代の私たちの生活とのかかわりの中で諸テーマを考える。

〔教科書〕 『宗教学ハンドブック』（世界書院）
『仏教のおしえ』（東京書籍）

宗教学Ⅱ

青 龍 宗 二

この講座は「宗教学Ⅰ」のあとをうけて、「禅仏教」を取り扱う科目であるが、特に禅思想を中心として、我々自身の人間形成にどのような関わり合いをもっているかを考え、併せて日本文化と禅との関連をも言及してゆく。

宗 教 学 II

峰 岸 孝 哉

この宗教学IIは、宗教学Iを学んだ後を受けて、中国で成立し、大なる展開をとげた禅仏教の解説を内容としている。まずインド、中国、日本の禅仏教の歴史をたどり、その思想と行動の特色について考えてみる。とりわけ日本文化に与えた影響や、今日の意味については特に注意して考えたい。

〔教科書〕 山内舜雄編『宗教学II』（更生社）

〔参考書〕 『宗教学ハンドブック』（世界書院）

宗 教 学 II

河 村 孝 道

日常的立場と宗教的立場における視点の相違についての理解、禅仏教の立場の思想的理解、および宗教（禅）と人生との関わり合いと、そこからの種々の問題について考察する。

〔参考書〕 『宗教学II』（更生社）

『宗教学ハンドブック』（世界書院）

宗 教 学 II

若 月 正 吾

昭和の初期、和辻哲郎博士の『沙門道元』によって近代における道元禅師の日本精神史上の位置づけがなされ、続いて秋山範二氏の『道元の研究』さらには田辺元博士の『正法眼蔵哲学私観』の著書によって、道元禅師の研究は学界の注目するところとなった。

道元禅師の著『正法眼蔵』の研究は戦後ますます旺んになったが、その内容はまことに難解とされている。

『正法眼蔵随聞記』は禅師の弟子懷茸禅師が親しく随侍した間に、教えを聞くに随って書きとめたもので、正法眼蔵研究の手がかりとなる好個の書である。随聞記を講読することによって、道元禅師の思想ならびに禅とは何かということを探索してみたいと思う。

〔教科書〕 大久保道舟校註『正法眼蔵随聞記』

（山喜房佛書林）¥1,000

宗 教 学 II

石 井 修 道

駒沢大学で行われている宗教学IIとは、宗教学とは何か、仏教とは何かを学んだ宗教学Iの後を受けて、禅とは何かについて具体的に学ぶ科目である。インドからやって来たダルマを開祖とする禅は、何よりも実践を重ん

じているので、第一はその思想が生まれてくる背景は何かをまず学びたい。次にダルマ以降に発展する禅では、自己への問いかけを重要課題とするので、第二は禅でいう自己とは何かを問題にして行きたい。第三は禅の歴史の上にあられる個性的な禅者を通して、禅が何をめざしているかを考えたい。

〔教科書〕 山内舜雄編『宗教学II』（更生社）

¥1,950

哲 学

久 保 陽 一 ・ 中 村 友 太 郎

人間は生れつき、知識の営みをするように定められている。人間のもつどんな知識でも思想を表わし、人間はその思想によって生きている。しかしわれわれの日常生活では、自分がどのような思想によって生きているのか自覚がない。それは、伝統的思想に支配されているからである。われわれが「よりよく生きる」ことを願うならば、一定の目標を定めなければならない。そのためには自覚した思想をもたなければならない。哲学は、古代から現代に至るまでの自覚された思想を研究し、さらにそれを自らの生きるための思想とするものである。また大学における学問研究の基礎知識の獲得にも努める。

〔教科書〕 その都度指示する。

論 理 学

円 谷 裕 二 ・ 丸 山 豊 樹

論理学は、正しく思考するためには「いかに思考すべきか」を教える科学である。ここでいう思考は、推理という型の思考である。われわれは、学問する場合はむろんのこと日常生活においても、たえず思考しているが、必ずしも正しく思考しているとはかぎらない。したがって、論理学によって正しく思考するための法則を学ばなければならない。さらに、現代の科学技術や電算機の基礎になっている論理法則の理解や習得に努める。

〔教科書〕 その都度指示する。

歴 史 学

廣 瀬 良 弘

文化の成立および展開、寺社が持った社会的な機能、社会慣習と法との関係など、日本の中・近世社会をさまざまな角度から分析することにより、歴史の流れを把握する力、すなわち、「歴史を見る目」が養われるようつとめたいと思う。

〔参考書〕 授業中に随時指示。

文 学

田 中 徳 定

文学は歴史的に表面に現れる部分だけでなく、むしろその裏にひそむ「人間」を描くことによって、その時代というものを逆に照射していると考えられることができる。そこで、歴史との関わりの中において、文学は何を描き出しているのかを、日本の文学を中心に考えていきたい。

芸 術 学 (日本美術)

林 良 一

日本美術の古代より近世までの様式的展開ならびに全般を通しての芸術的特色について講述する。なお、現地撮影の遺構および作品のカラーズライドにより、理解を深めるよう努める方針である。

芸 術 学 (西洋美術)

宮 崎 克 己

ヨーロッパのルネサンスから現代までの絵画を考える。各地域、各時代の代表的名作を選んで、掘り下げて論ずる。西洋の美術作品の基本的な見方を修得する事を目標とする。

受講者には、適宜、美術館、展覧会の見学、およびレポートの提出を要求する。

社 会 分 野

法 学 憲 法

和 知 恵 一

我々の日常生活は法と密接に関わり合っている。例えば、本屋さんで週刊紙を買う行為は、「売買契約」という民法555条以下の規定で律される。映画を見る・電車に乗るといった行為も同様に、すべて法的な側面を持っている。

天ぶらを揚げていて火事を出してしまうということがあるが(S.59年の東京都では6964件の火事のうち529件が天ぶら油による火災)、この火事を出したことで、どんな刑罰が科されるのか、また隣家を焼失させてしまった損害の賠償はどうすべきか?

こういった具体的事例を多数挙げて講義を進める。

〔教科書〕 小林・高橋・花井・和知著『事例法学入門』(東京教学社)

『ポケット六法』(有斐閣)

〔参考書〕 小林弘人他著『憲法27講』(創成社)
橋本辰夫編著『ケースメソッド現代法学入門』(圭文社)

法 学 憲 法

鷓 徳 啓 登

よく「社会あるところ法あり」といわれる。その社会にある法とは何かを研究するのが法学である。法に共通する根本的な理念は何か、法の目的は何かなど、法を研究する場合にどうしても解明しなければならない問題がある。

また憲法は、国家の基本法として他の諸々の法令の根幹をなすものであり、人権と統治機構よりなる。そして現代にいたっては、社会状況の変化に伴い新しい人権といわれるものの研究もなされている。

そこで、本講義では、これらのテーマを中心にまず一通り法学をやり、つぎに法の中でもその中枢をなす憲法の理念や原則などについて説明してゆきたいと思う。

〔教科書〕 『憲法27講』(創成社) ¥2,500

〔参考書〕 『事例法学入門』(東京教学社)
¥1,700

『ケースメソッド現代法学入門』(圭文社) ¥1,800

経 済 学

荒 木 勝 啓

教養の経済学として最低限必要なマクロ経済理論を講義する。予定は次の通りである。

- | | |
|--------------|------|
| 1. 貨幣数量説 | } 前期 |
| 2. 国民所得決定の理論 | |
| 3. 乗数理論 | |
| 4. IS・LM分析 | } 後期 |
| 5. 経済政策の効果 | |
| 6. 総需要・総供給分析 | |

〔教科書〕 浅野・荒木・浅田『エコノミクス』
昭和63年4月刊行予定

政 治 学

小 林 正 敏

現代政治学の諸領域を、政治理論、政治集団、政治機構等にわたって系統的に論述する。特に社会学科の政治学であることを考慮して、政治社会学、政治心理学的な

視点をも重視したい。

〔教科書〕 高橋正則他著『現代日本の政治構造』
(芦書房)

社会学

橋 爪 敏

社会学という学問の持つ研究対象や性格は、ほかの社会諸科学と比べた場合、あまり理解しやすいものとは言えない。それは、社会学のもつ一種独特の学問的性格や対象の設定に基づくものである。社会学は、名称の示すごとく、社会を研究対象とするものであるがそれを常に具体的、現実的な人と人との関係の現象、集団の現象に還元して考察、理解し、さらには理論に体系化する志向をもつ。そこで、この講義では、このような社会学独自の社会現象の見方、考え方、また基礎的な知識をテキストをもとに理解し、考えていくこととしたい。

〔教科書〕 安藤喜久雄ほか編『社会学概論』〔新版〕
(学文社)

〔参考書〕 安藤喜久雄ほか編『わかりやすい社会学』
(学文社)

文化人類学

加 藤 正 春

文化人類学の基礎的概念、方法、理論等を講義する。各地の民族の具体的な生活事実をできるだけ紹介しながら、人類文化の多様性と、この学問の基本的視点の理解に努める。日本の伝統的社会・文化の紹介もおこなう。

地理学

中 俣 均

高校時代の「地理」という教科のイメージを一新し、世の中の現象を「地理学的な」眼でながめることによって、社会や文化に対して新鮮な視野を開くことを目標としたい。テキスト等については、開講時に教室で指示する。

地理学

矢 野 陽 子

地球上最大の大陸と最大の大洋の間に位置する日本列島は、複雑な自然に富み、地震・火山噴火・集中豪雨・台風等多くの天災に見舞われながらも、今日の発展を日本国民にもたらしています。

本講では、この発展の母体である日本列島の自然と人間生活について地誌的立場から、日本全域を対象として地域の本質(地域的特性)を明らかにしたいと思います。

〔教科書〕 『日本地誌』〔改訂増補版〕¥1,900
地図帳使用。

自然分野

自然科学概論

宇和川 正 人

自然環境と資源の諸問題について解説する。あわせて、資源の開発と人類とのかかわりあいについて考察する。

〔参考書〕 その都度紹介する。

自然科学概論

斎 藤 浩 三

文明の進歩は、その時代の材料の発達に負うところが大きい。石器から金属利用への転換は社会構造を一変させ、製鉄技術の発達は近代文明を大きく促進、開花させた。現在は新産業革命の胎動期であり、新素材の開発によってコンピュータ、通信、宇宙など未知の分野が次々に解明されつつある。そこで、われわれの使っている材料資源を概観し、さらに高機能新素材と、これに支えられている先端技術の一端を展望する。

〔参考書〕 必要に応じ紹介する。

数 学

斎 藤 浩 三

科学、技術、産業、経済、社会などあらゆる分野において、膨大な量のデータが氾濫している。これらのデータを整理・集約し、図表化することによって、はじめて役に立つ情報となる。データの集計・整理、図表の作成、特性値、相関、分布などの基本事項を学び、微分・積分についても随時演習を行いながら平易に講義する。

〔参考書〕 必要に応じて紹介する。

生 物 学

清 水 善 和

生物学をその対象と研究手段で大別すると、①室内実験に基づく物質（特に遺伝子）や細胞を基礎にした分野と、②野外観察に基づく個体や種を基礎にした分野に分けられる。そこで本講義では前期に①の分野（細胞と代謝、発生、免疫、脳と神経、性と遺伝）を取り上げ、後期で②の分野（人類の起源、分類と系統、生態、生物地理、進化論）について解説する。

生 物 学

本 間 暁

進化、遺伝、生態・自然保護を3つの柱として、生物学の基本的知識を中心に、人間生活と関連した問題や最近話題になっている問題（遺伝子工学、ガン・免疫、環境問題 etc）をまじえ、わかりやすく解説する予定である。

〔参考書〕 小野幹雄ら著『BIOSCIENCE バイオサイエンス 生命の科学』（改訂版）（芦書房）¥2,200

心 理 学

横 山 剛

本講義は心理学の主要な領域と心理学の対象・方法について基礎的な知見を与える入門の講義である。内容としては、感覚や知覚、学習、記憶などの基礎の分野から情緒、知能、性格、異常などの応用・臨床的な分野などを解説する。いずれにせよ、学生諸子が己れの理解を深め、複雑な現代の社会現象を見ていく上の一助となれば幸いである。

〔教科書〕 中村昭之編『心理学概説』（八千代出版）¥1,400

〔参考書〕 村山貞雄監修、霜山徳爾編『臨床心理学』（学術図書出版）

心 理 学

坂 原 明

心理学の各分野を概観し、その基礎的知識を解説すると共に、今日、社会において心理学が担っている問題について考えてゆきたい。また、日常生活において見られる人間の様々な行動を従来の研究成果をもとに解説し、心理学的なもの見方、考え方がどのようなものであるかを考えてゆきたい。講義では、随時供覧実験などを折

り込み心理学的研究の雰囲気も味わってもらいたいと思っている。

〔教科書〕 中村昭之監修『心理学概説』（八千代出版）

人 類 学

斎 藤 成 也

「人類の進化」を柱として、自然人類学を講義する。内容は、(1)生物の進化と進化論、(2)霊長類の博物誌、(3)遺伝子からみたヒトと類人猿の系統関係、(4)化石人類の系譜、(5)先史学と年代学、(6)人類集団の遺伝的近縁関係、(7)採集狩猟民の生態、(8)日本人の起源、等を予定している。

地 学

中 島 義 一

地学のはんいは広いが、陸水学・気候学・地形学の主要問題を講義する。地図帳（高校生の時に使用したものでよい）を忘れずに持ってくること。

化 学

高 木 正 博

まず、物質の本性について、原子の結びつきから解説する。つぎに、地球化学および環境汚染の視点から、化学物質と自然環境の関係や、人間とのかかわりあいについてのべる。

物 理 学

篠 原 正 雄

まず、物理学の出発点である力学の考え方を、「力」、「エネルギー」を中心に解説する。次に、「エネルギー」という概念を軸とする電磁気、光、熱、原子等の分野について、地学的な応用にもふれつつ概説する。最後に、宇宙物理学の成果にも触れたい。

〔参考書〕 『一般教育物理学』（東京教学社）

保健体育科目（共通）

保健体育理論

三 幣 晴 三

体育・スポーツに関する全般的知識，特に生涯体育，スポーツの文化的視点からの考察，人間の運動に関する実際の考察を中心とし，さらに現在および将来にむけての健康的内容を取りあつかう。

保健体育理論（再クラス）

三 幣 晴 三

体育・スポーツに関する全般的知識，特に生涯体育，スポーツの文化的視点からの考察，人間の運動に関する実際の考察を中心とし，さらに現在および将来にむけての健康的内容を取りあつかう。

保健体育理論

村 松 誠

健康とその意義について理解し，健康を阻害する因子を解明して，健康の保持増進の方策を学習する。さらに進んで健康のための体力づくりについても考えて行く。また，スポーツ・体育に関する基礎的，基本的な知識の習得と，現代における，スポーツ・体育の問題点について言及して行く。

保健体育理論（再クラス）

森 本 葵

体力づくり

- ＜若年層における体力づくりの必要性＞
- ＜体力のメカニズム＞
- ＜体力づくりの方法＞
- ＜体力づくりにかかわる疲労の問題＞
- ＜疲労の判定法＞

オリンピックゲーム

- ＜歴 史＞
- ＜問題点＞
- ＜その将来＞

〔教科書〕 『保健体育理論』（科学書院）

〔参考書〕 『スポーツ・トレーナー教本』（日体協）

保健体育理論

森 本 葵

体力づくり

- ＜若年層における体力づくりの必要性＞
- ＜体力のメカニズム＞
- ＜体力づくりの方法＞
- ＜体力づくりにかかわる疲労の問題＞
- ＜疲労の判定法＞

オリンピックゲーム

- ＜歴 史＞
- ＜問題点＞
- ＜その将来＞

〔教科書〕 『保健体育理論』（科学書院）

〔参考書〕 『スポーツ・トレーナー教本』（日体協）

随 意 科 目 (共 通)

宗教学特講 I

松 田 文 雄

——宗教思想および用語の概説——、特に教職単位であることを考慮し、宗教思想の潮流、および宗教思想上の基本的用語を概説する。今年度は日本仏教を取り上げる。

〔参考書〕 随時指示する。

宗教学特講 II

脇 本 平 也

——宗教学説史——経験科学としての宗教学の成立と展開を、問題中心に学説史的にあとづけてみる。参考文献をその都度指示する。

宗教学特講 III

洗 建

現代社会における宗教の問題、とりわけ政教関係の問題をとりあげる。国家と宗教の関係を規定する法制度とその価値規範、更に底流をなす宗教文化との関係について考察する。

〔参考書〕 随時指示する。

哲学特講 I (東洋)

篠 原 壽 雄

中国の哲学・東洋思想を理解しようとする、儒教・仏教、そして道教の学習は欠かせない。そこで前期は老荘の学と道教を学びたい。後期には墨子の非命、非儒などの精神が韓非子にいかを受容されたかなどを中心に、先秦の人びとの心にあるものを探りたい。ついで荘子を学び、併せて中国禅思想を考究したい。

〔教科書〕 『莊子』〔内篇冊〕(中公文庫)

哲学特講 II (西洋)

國 嶋 一 則

人間は、何かを頼りとし支えとしなければ生きてゆけない。しかし日常、われわれは自己の人生の頼りとなり支えとなるものを自覚していない。それを自覚することは、自分がどのような生き方をしているのかを知ることである。つまり主義に拠り主張をもって生きることである。

歴史上の大きな主義を検討することによって、現代世界の有力な主義を明確にし、自己の持つべき主義を選択する手掛りとしたい。

〔参考書〕 その都度示す。

哲学特講 III (西洋)

久 保 陽 一

哲学はソクラテス以来「人間はいかに生きるべきか」を探究してきた。しかしこの問いは「世界において何が真に存在するものか」という存在への問い、或は形而上学の問題と切り離つることができない。形而上学は19世紀以後科学主義や無神論等によって批判されて久しい。しかし形而上学的な問いなしに、今日、人間の状況の理解や生き方が明確になったかどうかは疑わしい。そこで存在の探究を再検討する必要があると思われる。講義では、古代ギリシア哲学、キリスト教哲学、デカルト、ヘーゲル、ハイデッガー等の存在論を取り上げることにしたい。

〔教科書〕 『哲学理論の歴史』(公論社) ¥2,500

〔参考書〕 開講時に挙げる。

宗教人類学

佐 々 木 宏 幹

アニミズム、アニマティズム、シャーマニズム、妖術、邪術、死霊・祖霊崇拜など宗教的諸形態をめぐる理論や学説を紹介するとともに、これら諸形態が、日本を含むアジア各地の現代の文化・社会のなかでどのような位置と役割をもっているのかについて考察する。スライドを用い具体的に進める。

〔参考書〕 佐々木宏幹『シャーマニズム』(中央公論社) ¥520

民間信仰論

谷口 貢

地域社会信民のあいだに伝承されてきた神祭りをはじめ年中行事・通過儀礼など各地の具体的な事例を紹介しながら、民間信仰の構造と機能を明らかにし、日本人の伝統的な神観念や靈魂観についても考察を加える。

〔教科書〕 桜井徳太郎著『民間信仰と現代社会』

日本宗教文化史

脇本 平也

関連の文献を読む。出欠をとり、文献読解の分担を課する。

民衆宗教成立史

洗 建

現代における民衆宗教、すなわち新宗教をめぐる諸問題について考察し、主要な新宗教を紹介する。

〔参考書〕 堀 一郎編『日本の宗教』（大明堂）
¥2,000

歴史哲学

山下 太郎

歴史哲学は、歴史研究における意義、方法、目的、原理等を探究するものであり、実証的な歴史学の基礎をさぐる学問である。本講義はおおむね次のテーマに従って行ない、歴史の認識および存在についての基本的理解をえさせることを意図する。

第1章 歴史認識の問題

(1)批判主義（カント） (2)新カント派（ヴィンデルバン
ト） (3)生の哲学（デヒルタイ） (4)実存哲学

第2章 歴史法則の問題

(1)終末論的史観（キリスト教） (2)進化論的史観（ス
ペンサー） (3)弁証法的史観（ヘーゲル、マルクス）
(4)実存主義史観（ヤスパース）

美術史概説

林 良一

中国の南北朝より朝鮮の三国時代を経て、わが国の飛鳥期の仏教彫刻にいたる様式的展開について講述する。

各地の寺院遺跡や遺品などのカラー・スライドを映写し、視覚的に理解を深めるように努める方針である。

東洋思想研究

館野 正美

中国哲学の源流をなすと考えられる、中国古代の、いわゆる「諸子百家」の各学説を講義する。

諸子百家の中でも、特に、孔子・孟子・荀子らに代表される「儒家」、墨子の「墨家」、そして老子や荘子らの織りなす「道家」、以上三学派を中心に講じてゆきたい。

かくして、中国哲学の一典型を明らかにしたいと考えている。

〔参考書〕 授業中に紹介します。

日本文化史Ⅱ

有元 修一

日本文化の多様な流れを概観するとともにその特色をあきらかにする。本年は特に中世後半から近世を中心とする。

〔参考書〕 家永三郎著『日本文化史 第2版』
（岩波新書）

日本民俗学

渡邊 欣雄

私の民俗学という視野から、民俗学を論じ民俗学の扱う題材について紹介する。本講義は決して日本民俗学の概論講義ではないから、注意を要する。対象とする文化は主として日本本土ではなく、沖縄・台湾・香港・マレーシア等の南方であり、題材は宴・風水・鬼魂観・社会関係に及ぶ。

〔教科書〕 とくに用いず。

〔参考書〕 渡邊欣雄著『沖縄の社会組織と世界観』
（新泉社）¥8,000
渡邊欣雄著『沖縄の祭礼』（第一書房）
¥3,800

英会話Ⅱ

J.K. ウエルズ・J.G. ギャリソン
T.J. コーガン・P.A. ベンディネリィ

全学で4クラスを設け、学部及び短大の2年次生以上を対象とします。

担当名及び曜日、時限、クラスは時間割表で確認し、詳しくは教場で教師の説明に従って下さい。

〔教科書〕 テキストは担当教師が教場にて指示。

英語 LL II

T. J. コーガン・大庭 直樹

英語LL Iのアドバンスト・コースとして全学で2クラスを設け、学部及び短大の2年次生以上を対象とします。1年次に英語LL Iを履修しなかった学生も参加し履修できるようにしてあります。

担当名及び曜日、時限、クラスは時間割表で確認して下さい。

〔教科書〕 テキストは担当教師が教場にて指示。

ドイツ語 F

吾妻 雄次郎

主として一、二年次でドイツ語を履修した学生諸君を対象に、第二次大戦前後の短編小説を通して、ドイツの特異性の一端に触れ、同時にドイツ文法の更に包括的な習得につとめる。

〔教科書〕 プリントによる教材使用。

ドイツ語 FLL (初級)

松本 洋子

ビデオテープ等の視聴覚教材を用いて、まず、生きたドイツ語に触れ、聴き取り能力をつけることをめざす。そして基本的な語彙や文型を身につけ、ドイツ語の基礎的な表現力を養成し、簡単な日常会話が出来るようにしたい。テキストは教室で適宜配布する。

ドイツ語 FLL (中級)

野島 利彰

週一回という限られた時間内で、LLを通して語学を学ぶ方法としては基本的には多数の文章の記憶以外にはない。耳から音を聴き、記憶し、そしてそれを口から出す。こうした機械的な——時には無味乾燥な——練習の場としてこの授業を活用して行きたい。

なお受講者には前年度にFLL (初級)をとった者を望む。

〔教科書・参考書〕 教場で指示する。

フランス語 F

前田 祝一

フランス語中級から上級の勉強をしようとする人たちのためのクラスです。対象は3、4年生ですが2年生以

下でも、続ける決意があればかまいません。テキストなどは教室で皆さんの希望をきいて決定します。

フランス語 FLL (初級)

小玉 齊夫

ビデオ教材、カセットテープなどを用いて、視覚・聴覚を利用する授業を行っていきます。時間数が少ないのが残念ですが、一年間で、何とか、「初級」程度のフランス語が、話せ、聞きとれるようにします。文法は、話したり聞きとったりするためには、役に立たないわけではありませんが、それほど重要とは言いきれません。ふだんと同じような、つまり日本語を話したり聞いたりするのと同じつもりで、授業に(休まずに)出てきて、声を出していれば、しぜんに、フランス語の会話(=おしゃべり)の基礎がつくられていく、はずで。初心者でも参加できるような授業内容にするつもりです。

〔参考書〕 開講時に指示します。

フランス語 FLL (初級)

M. マルタン

初心者のための実用的なフランス語会話です。やさしい聞きとり練習や文章パターンの習得を通じて、基礎的な会話に必要な表現能力を養成することを目的とします。テキストは教室で配布します。

〔教科書〕 『Avec Plaisir』 Emission 1 より。

フランス語 FLL (中級)

M. マルタン

初級会話にやや慣れた学生のための実用会話。初級会話を簡単に復習したあと、下記の教科書を使って、少し高度な聞きとり、及び表現の練習をします。

〔教科書〕 『Entrée Libre 1』

中国語 F

釜屋 修

すでに習得した中国語能力をいかしてより高く、より正確な中国語への理解力を高めるための共学の場である。短篇小説、評論文を用いて文章解析力、朗読能力の向上に焦点をあてるとともに、簡単な日常会話力も身につけられるようにしたい。欠席しない人を求む。

〔教科書〕 開講後に受講生諸君の希望も聞き選定する。

〔参考書〕 その都度指示する。

中国語 FLL (初級)

果 荃 英

中国語初級を終えたものを主たる対象とし、正確な発音をマスターし、やさしい中国語の会話を習得することを目的とする。視聴覚教材を使用して楽しく授業を進めたいと思う。

〔教科書〕 教場にてプリントを配布する。

中国語 FLL (中級)

羅 漾 明

中国語FLL初級を終えたもの又は中国語を一年以上履修したものを対象とする。会話を中心として授業を進めます。

〔教科書〕 必要に応じて教場でプリントを配ります。

スペイン語 F

(前期) 細 川 幸 夫
(後期) 佐 藤 玖 美 子

今世紀スペインの有名な歴史家であり社会学者であるアメリコ・カストロの著者“イベロアメリカ”の講読を行う。学生諸君が1、2年で習得したスペイン語の知識の深化、発展をはかると共に、中南米諸国がたどってきた苦難、屈折の歴史を知り、中南米の現状に対する理解を深め、また検討を加えることを試みたい。

〔教科書〕 プリント

スペイン語 FLL (初級)

J. ナ バ ロ

初心者を対象に、スライドやビデオを見ながら、やさしい日常会話を勉強します。正規授業のスペイン語を履習している学生の受講を望みます。

スペイン語 FLL (中級)

J. ナ バ ロ

前年度LL初級を終えたもの、またはそれと同等の学力を身につけているものを対象に、ビデオを見ながら、日常会話を勉強します。

ロシア語 F

杉 山 秀 子

本講座はロシア語初級課程を終えたものを主たる対象とする。ロシア語の読解力と表現力を身につけるための平易な読みもの——文学新聞の抜すい、諷刺漫画(クロコディル)、スポーツニクなどをさまざまな角度からとりあげていきたい。

〔教科書〕 プリントを教場で配布。

ロシア語 FLL (初級)

野 村 タチアナ

テキストに従いやさしいロシア語の日常会話を学習する。正しいロシア語の発音やイントネーションを練習し簡単なロシア語の表現力を身につけることを目的とする。

〔教科書〕 教場にて指示。

ロシア語 FLL (中級)

野 村 タチアナ

初級課程で得た知識を土台に更にロシア語独特な生の言いまわしや、日常会話の平均的速度になれてもらい、自由な発話への等一步となる様に心がけていきたい。

〔教科書〕 教場にて指示。

英 語 (海外演習)

この授業科目は、ハワイ大学・カリフォルニア大学における短期留学サマーセミナーでの、4週間・60時間に及ぶ現地演習を中心として行われる、英語随意科目である。

受講対象学生は、1年次生から卒業年次生までとし、6月上旬から7月上旬にかけての事前指導・事前講習、7月中旬から8月中旬にかけての現地演習、9月下旬のテストを通じて単位(2単位)が認定される。

受講希望者は、5月上旬に実施される説明会に参加し、5月中旬に所定の手続に従って申込みたい。受講の可否は、5月下旬に決定される。

国文学科

基礎教育科目

基礎国文学(田中 徳定)……………	77
基礎国文学(渡辺 守邦)……………	77
基礎国語学(若杉 哲男)……………	77
基礎中国文学(中村 璋八)……………	77

専門教育科目

国文学概論(水原 一)……………	77
国語学概論(木村 晟)……………	77
国文学講読Ⅰ(村上 光徳)……………	78
国文学講読Ⅱ(田中 徳定)……………	78
国文学講読Ⅲ(林 達也)……………	78
中国文学講読(篠原 壽雄)……………	78
国語学研究(木村 晟)……………	78
国語学研究(田中 章夫)……………	78
国文学史(上代)(遠藤 宏)……………	78
国文学史(中古)(高橋 文二)……………	78
国文学史(中世)(牧野 和夫)……………	78
国文学史(近世)(林 達也)……………	79
国文学史(近代)(畑 實)……………	79
国語学演習Ⅰ(木村 晟)……………	79
国文学演習Ⅰ(上代)(小野 寛)……………	79
国文学演習Ⅰ(中古)(高橋 文二)……………	79
国文学演習Ⅰ(中古)(田中 徳定)……………	79
国文学演習Ⅰ(中世)(村上 光徳)……………	79
国文学演習Ⅰ(近世)(林 達也)……………	79
国文学演習Ⅰ(近代)(片岡 懋)……………	79
国文学演習Ⅰ(近代)(高田 知波)……………	80
国文学演習Ⅰ(近代)(橋本 芳一郎)……………	80
国語学演習Ⅱ(木村 晟)……………	80
国文学演習Ⅱ(上代)(小野 寛)……………	80
国文学演習Ⅱ(中古)(高橋 文二)……………	80
国文学演習Ⅱ(中古)(廣島 まさる)……………	80
国文学演習Ⅱ(中世)(水原 一)……………	80
国文学演習Ⅱ(中世)(村上 光徳)……………	80
国文学演習Ⅱ(近世)(林 達也)……………	80
国文学演習Ⅱ(近世)(富士 昭雄)……………	81
国文学演習Ⅱ(近代)(片岡 懋)……………	81
国文学演習Ⅱ(近代)(高田 知波)……………	81
国文学演習Ⅱ(近代)(橋本 芳一郎)……………	81
国文学研究(片岡 懋)……………	81
国文学研究(畑 實)……………	81
国文学研究(村上 光徳)……………	81
文学概論(橋本 芳一郎)……………	81
国語学史(田中 章夫)……………	81

言語学概論(飯島 周)……………	81
上代文学講読(小野 寛)……………	82
近代文学講読(高田 知波)……………	82
上代文学(小野 寛)……………	82
中古文学(廣島 まさる)……………	82
中世文学(水原 一)……………	82
近世文学(渡辺 守邦)……………	82
近代文学(片岡 懋)……………	82
国文学特講Ⅰ(近藤 瑞男)……………	82
国文学特講Ⅱ(岩佐 美代子)……………	83
国文学特講Ⅲ(長谷川 政春)……………	83
国文学特講Ⅳ(高田 知波)……………	83
中国文学(中村 璋八)……………	83
中国文学演習(中村 璋八)……………	83
中国文学概論(篠原 壽雄)……………	83
仏教概論(山内 舜雄)……………	83
東洋思想研究(館野 正美)……………	83
日本史概説Ⅰ(古代・中世)(渡辺 直彦)……………	84
日本史概説Ⅱ(近世・近代)(木槻 哲夫)……………	84
日本文化史Ⅱ(有元 修一)……………	84
書道史(谷村 義雄)……………	84
書道実習Ⅰ(金子 卓義)……………	84
書道実習Ⅱ(金子 卓義)……………	84
美術史概説(林 良一)……………	84
美術史(谷村 義雄)……………	84
現代美術(宮崎 克己)……………	84
編集実務(宇賀田 達雄)……………	85
英米文化(金関 寿夫)……………	85
日本民俗学(渡邊 欣雄)……………	85

国 文 学 科

基礎教育科目

基礎国文学

田 中 徳 定

古典文学の代表的作品を読みながら、作品と時代との関わりを考え、何故その作品が生み出されてきたか、また、文学史の中においてどのような意味をもっているかを考えていく予定。

〔教科書〕 『資料日本文学史 上代・中古篇』
(桜楓社) ¥1,600

基礎国文学

渡 辺 守 邦

日本古典・近代文学の関連を見わたし、或いは、比較検討しながら、諸問題(作品論・表現論・歴史状況との関係・文体・解釈・考証・伝本など)に対する基礎的学力の確立を目的とする。

〔教科書〕 プリントによる。

基礎国語学

若 杉 哲 男

直接は、文語を中心とする国文法への考察を目的とするが、それだけにとどまらず、広く言葉に関する諸問題も取上げて、国語への関心と知識を深めるようにしたい。

〔教科書〕 和田利政・森 昇一・岡崎正継著
『国文法要説 文語篇』(桜楓社)
¥1,400

基礎中国文学

中 村 璋 八

中国の先秦時代より唐・宋時代に至る散文・韻文、それに諸子百家を始めとする思想的な作品を歴史的な背景

を考えながら解説し、それによって中国古典の読解力を養い、また、漢字の構成、中国の風土や習慣なども説明し、それらの中国の文化が如何に日本に伝来し、日本の文化一般に影響を及ぼしたかも述べて行く。この講義によって中国古典・日本の漢詩文が抵抗なく読めるようにしたい。

〔教科書〕 『中国思想文学通史』(明治書院)
¥1,500

専門教育科目

国文学概論

水 原 一

国文学の領域、種類、思想的・芸術的理念について講じ、研究課題・研究方法等について概観する。

〔教科書〕 吉田精一編『日本文学概説』(有精堂)
¥1,800

国語学概論

木 村 晟

国語学は特殊言語学の一つである。従って一般言語学の研究成果が国語学の研究にも応用されることが当然あり得る。しかしながら、一方国語には他の諸言語に見られない多くの特徴がある。そのために国語学独自の研究分野や研究方法が存在することも事実である。——こういう観点から本年は国語学全般について講ずるとともに、文字論や文体論に重点を置く。

〔教科書〕 福島邦道著『国語学要論』(笠間書院)
¥ 800

〔参考書〕 橋本進吉著『国語学概論』(岩波書店)
時枝誠記著『国語学原論』(岩波書店)
山田忠雄著『国語学概論』(日大通信教育部)

国文学講読Ⅰ

村上光徳

『平家物語』の代表的な句を選んで読み、本文を通して平家物語という作品を十分鑑賞する。そして軍記物語と呼ばれるジャンルの問題や平家物語の文学史的評価、または成立の問題、作者の問題、群がる諸異本の問題、つまり、語りもの・読みものなどの問題、今後の研究方向等さまざまな問題を取りあげて多方面から平家物語を研究してゆく。

〔教科書〕『平家物語抄』（桜楓社）

〔参考書〕『平家物語全注釈』（角川書店）

国文学講読Ⅱ

田中徳定

『源氏物語』の「桐壺」の巻を講読し、王朝文学世界のありようについて考える。

〔教科書〕『源氏物語（一）』（明治書院）

¥1,200

国文学講読Ⅲ

林達也

上田秋成の『雨月物語』を講読し、秋成文学の特質を考察する。

〔教科書〕水野稔『雨月物語』（明治書院）

中国文学講読

篠原壽雄

古典文学作品中のきわめて代表的なものを学習して、その精華を味読する。訓読法に精通することを主眼にしたいが、韻文は中国音にて読むことにとめたい。

〔教科書〕『詩文精粹』（明治書店）¥1,100

〔参考書〕その都度紹介したい。

国語学研究

木村晟

文禄元年（1592）成立の『天草本伊曾保物語』を読解して、室町時代語の特徴を音韻・文字・語彙・語法の各方面から考察し、またその研究方法をも指導する。『日

葡辞書』『ロドリゲス日本大文典』『下学集』『節用集』の古辞書類は常に参照する。

〔教科書〕『天草版 伊曾保物語』（勉誠社）

¥1,500

〔参考書〕授業中に説明する。

国語学研究

田中章夫

現代日本語の背景としての江戸語の形成から、明治に至る近代日本語の成立過程を考察する。

〔教科書〕真田信治『標準語の成立事情』（PHP研究所刊）

国文学史（上代）

遠藤宏

文学の発生からの上代文学の流れを講述する。

〔教科書〕小野寛・金井清一編『年表資料 上代文学史』（笠間書院）

国文学史（中古）

高橋文二

単なる通史としてではなく、例えば自然観の推移・展相を辿ることによって王朝（平安）文学の流れの一端を明らかにしたい。『文華秀麗集』を始めとする漢詩集、『古今集』などの和歌集、さらには『蜻蛉日記』や『更級日記』や『源氏物語』などの女流作者たちの日記・物語を通して、王朝文学の流れの特質を考えたい。

〔教科書〕『風景と共感覚』（春秋社）

国文学史（中世）

牧野和夫

中世の文化は、誠に混沌として懐の深いものである。従って、中世の文学も又奥行きが深く、入り組んでいて、ある一人の人物や“場”を介することによって、全く無縁と考えられていた作品間相互に、思いもかけない緊密な交流が認められることも多い。そうした点について、諸資料に基づきつゝ推量・臆測し、整然たる文学史の中に、「混沌」の息吹きを吹きこめれば、と考えている。

〔教科書〕『資料日本文学史 中世篇』（桜楓社）

¥1,600

国文学史(近世)

林 達 也

近世文学を、歴史状況との関連、表現論・文体論・作家論等にわたって検討する。本年は、近世初期の散文の状況について、中世との関わり、元禄期以後の可能性を視野に入れて考えていくことにする。教材は、教場において、その都度配布する。

〔参考書〕 原 道生・林 達也編『日本文芸史』
〔第四巻 近世〕(河出書房)

国文学史(近代)

畑 實

近代文学の流れを講ずる。テキストは用いないが、必要に応じてプリントを配布する。

国語学演習 I

木 村 晟

室町期の国語資料である『かながき論語』を採り挙げ、室町時代の音韻・語彙・語法・仮名づかいの各方面から考察する。『日葡辞書』『下学集』『節用集』等の古辞書の類は常に参照する。

〔教科書〕 プリントを用意する。
〔参考書〕 授業中に紹介する。

国文学演習 I (上代)

小 野 寛

『万葉集』から作品を選んで、各自一首ずつ担当し、本文の異同、諸注釈の検討、用語の調査研究など、徹底的に読み込んでゆく。今年度は巻一から歌を取り上げる。

〔教科書〕 鶴 久・森山 隆編『万葉集』(桜楓社)
〔参考書〕 小野 寛校註『万葉集抄』(笠間書院)

国文学演習 I (中古)

高 橋 文 二

『源氏物語』の「胡蝶」の巻を読み、王朝文学世界の特質を考える。古注釈の検討、本文の異同の確認、用語の通時的・共時的調査などを演習に臨む基礎的な作業とする。作業は、時間をかけた、厳密なものでありたいので、それなりの覚悟をもって臨んでいただきたい。

〔教科書〕 『源氏物語(三)』〔校注古典叢書〕
(明治書院) ¥1,500
『こてふ』〔影印本〕(新典社)

国文学演習 I (中古)

田 中 徳 定

『伊勢物語』の影印本を用い、古註釈・現代の註釈書類の精査、用語調査等を行なうことにより、本文を深く読み込んでいくことを目的とする。

〔教科書〕 『伊勢物語』〔影印本〕(笠間書院)
¥ 900

国文学演習 I (中世)

村 上 光 徳

『建礼門院右京大夫集』の研究。精読しとくに作者の真情流露した和歌に注意し、古代から中世へと移る社会転換の時代の中で平家公達との交際、源平対決、平家没落後の見聞など、さらに他の作品などの関連等について考察する。

〔教科書〕 久徳高文編『建礼門院右京大夫集』
(桜楓社)

国文学演習 I (近世)

林 達 也

細川幽斎が折にふれて述べたことを、鳥丸光広が筆記した『耳底記』を読む。幽斎は、中世と近世が接するところに位置する歌人・古典学者であり、当代に大きな影響を及ぼしている。丁寧に読みとり、和歌及び歌壇の傾向だけでなく、この時代の考え方も見ていきたい。尚、教材は、版本をプリントしたものをを用いる。参考資料等もその都度指示する。前年度に引き続き部分からよみはじめる。

尚、月に一つずつ、指定した近世の作品を読んでもらい、そのレポートの提出を義務とする。

国文学演習 I (近代)

片 岡 懋

森鷗外(うたかたの記、文づかひ)、矢崎嵯峨の屋(庭のをしへ子)、国木田独歩(牛肉と馬鈴薯、正直者、女難、富岡先生)、田山花袋(重右衛門の最後、少女病、蒲団)、森鷗外(かのやうに、阿部一族、高瀬舟、寒山拾得)、夏目漱石(硝子戸の中)、志賀直哉(荒絹、正義派、クロードアスの日記、清兵衛と瓢箪、兎を盗む

話、赤西蠣太、山形)、内田百閒(花火、件、流木、道連、短夜、石畳、波止場、冥途、山高帽子)、堀辰雄(聖家族、風立ちぬ、菜穂子)、岡本かの子(老妓抄、東海道五十三次、鮎)などの作家、作品を中心に演習を行う。とりあえず鷗外の作品を準備すること。

国文学演習Ⅰ(近代)

高田知波

〈戦後前期の小説〉を演習テーマにする。敗戦から昭和30年代末までの約20年間に書かれた代表作・問題作を読んでいく。

〔教科書〕 教場で指示する。

国文学演習Ⅰ(近代)

橋本芳一郎

森鷗外・永井荷風・谷崎潤一郎の三作家の作品中から、発表者の希望する作品について演習として攻究し、近代文学の研究法を学ぶ。

〔教科書〕 各自手持ちのもの。(文庫本でも可)

〔参考書〕 その都度指示する。

国語学演習Ⅱ

木村 晟

鎌倉時代成立の『光明真言土沙勤信記』を解読して、音韻・表記・語彙・語法の各方面から考察する。併せて卒論指導も行なう。『名義抄』『色葉字類抄』『日葡辞書』等の古辞書は常に参照する。

〔教科書〕 プリントを用意する。

国文学演習Ⅱ(上代)

小野 寛

記・紀・万葉集など上代作品を徹底的によみ込んでゆく。とり上げる作品は、開講時に相談してきめる。並行して、各自が卒業論文に選んだテーマに関して研究発表し、みんなで考え、採り合いながら、それぞれの卒業論文への結実を図る。

国文学演習Ⅱ(中古)

高橋文二

『源氏物語』の「鈴虫」の巻を読み、王朝女流文学の特質を考える。卒論の指導もかねる。

〔教科書〕 『すずむし』〔影印本〕(新典社)

¥ 500

国文学演習Ⅱ(中古)

廣島まさる

影印本によって、変体がない読み方に馴れると共に、源氏物語の文章を精読して、文章表現、情調、人物描写などについて吟味する。なお古註釈の検討も行いたい。

〔教科書〕 源氏物語『落標』〔影印本〕(新典社)

¥ 800

『写本の読み方』(桜楓社) ¥680

国文学演習Ⅱ(中世)

水原 一

『古今著聞集』をテキストとして、中世の説話を多角的に考察し、その研究を相互に発表し批判し合う。併せて学術的調査の技術を身につけ、卒業論文作成の動力を養う。

〔教科書〕 西尾・小林編『古今著聞集』〔上・下〕(新潮社)

国文学演習Ⅱ(中世)

村上光徳

『保元物語』の研究。本文を忠実に読み、作品の文学史的位置や乱の原因となった時代背景、登場人物、等々について検討する。

〔教科書〕 影印本を用いる。

国文学演習Ⅱ(近世)

林 達也

近世文学の作品を読み、作品の読解方法を身につけることを目的とする。読む作品は、開講時に、学生と相談のうえ、きめる。

国文学演習Ⅱ（近世）

富士 昭雄

影印本による西鶴など近世文学の演習。併せて卒業論文の指導をする。

〔教科書〕 教場でプリントを配布する。

国文学研究

畑 實

白樺派の代表的作家、志賀直哉、武者小路実篤、有島武郎の三人をとりあげ、作家と作品、作品と時代との関係などを考察する。

国文学演習Ⅱ（近代）

片岡 懋

北村透谷、島崎藤村、内田魯庵、正岡子規、石川啄木、中野重治の評論を中心に演習を行い、卒業論文についても話し合う。

とりあえず、岩波文庫の勝本清一郎校訂『北村透谷選集』を用意しておくこと。

国文学研究

村上 光徳

平安朝末期から中世にかけて宮廷生活のなれ者として許された一女性の書『無名草子』を読む。特に源氏物語批評を中心に源氏物語と合わせて研究する。続いて清少納言・紫式部等中古の女流作家批評へ移る。中世初期の物語論等見ることができ有意義。

〔教科書〕 『昭和校注 無名草子』（武蔵野書院）

国文学演習Ⅱ（近代）

高田 知波

学生の卒業論文テーマと関連させながら日本の近代小説を対象にした演習を行う。

〔教科書〕 教場で指示する。

文学概論

橋本 芳一郎

世界文学の観点から、文学の本質・目的意識・要素・ジャンルなどについて重要な学説を紹介しながら概説し、併せて近代文芸思潮の概説も行う。

〔教科書〕 ノート使用。

〔参考書〕 その都度教示する。

国文学演習Ⅱ（近代）

橋本 芳一郎

日本近代文学のうち、学生が卒業論文に選んだ作家の主要作品を演習として攻究し、併せて卒業論文の執筆指導を行う。

〔教科書・参考書〕 その都度教示する。

国語学史

田中 章夫

主として、近代の国文学説の展開を、国文学事象の観察を通じて考察する。

〔参考書〕 松村 明編『日本文学大辞典』（明治書院）

北原保雄ほか『日本文学事典』（有精堂）

国文学研究

片岡 懋

夏目漱石の「倫敦塔」、「幻影の盾」、「薙露行」、「趣味の遺伝」など『滌虚集』所収の作品から、『三四郎』、『それから』、『門』に至る作品を通して、漱石の考え方の展開と時代とのかかわり方などについて考える。

言語学概論

飯島 周

言語研究の歴史、方法、分野について略述し、“ことばの仕組み”や“ことばのはたらき”について具体的な分析を試みる。日本語を主な対象とするが、初歩的な英文法の知識を持つことが望ましい。

〔教科書〕 特に指定しない。

〔参考書〕 V. マテジウス『機能言語学』（桐原書店）¥2,800

上代文学講読

小野 寛

上代は日本文学の草創期である。日本文学のすべての原点である。説話文学として『古事記』や『日本書紀』の神話・伝説がある。『古風土記』の地名起源説話などもおもしろい。『古事記』『日本書紀』にはまた、「うた」が多く含まれている。古代人たちが節をつけ、所作をつけ、楽器を伴奏にうたったものである。これを『記紀歌謡』という。そして「うた」はやがて書記されるようになり、記載文学としての「うた」の集である『万葉集』が登場する。これら上代文学の神髄に触れてみよう。
〔教科書〕 適宜指定し、あるいはプリントを使う。

近代文学講読

高田 知波

樋口一葉の代表作品のほとんどが「奇蹟の期間」と呼ばれる14ヶ月間に集中している。本講ではそのうちの『大つごもり』『十三夜』『たけくらべ』『にぎりえ』の4作品を一年間かけて精読する。幸田弘子による朗読テープも活用する予定である。
〔教科書〕 木村真佐幸『樋口一葉』（桜楓社）
¥1,800

上代文学

小野 寛

『万葉集』をよむ。これは古代の日本人の心をよむことであり、古代の歴史をよむことである。『万葉集』をよむに当って、一首一首、諸本の本文の異同をたずね、その訓みを明らかにし、上代語およびその独自の語法をしらべ、作者の心をさぐり、その作品の背景となる歴史・風土・民俗などについても詳細にしらべながらよんでゆく。

〔教科書〕 小野 寛校注『万葉集抄』（笠間書院）
〔参考書〕 金井清一・小野 寛編『年表資料 上代文学史』（笠間書院）

中古文学

廣島 まさる

影印本によって写本を読む力を養うと共に、中古語の理解を深めたい。なお『和泉式部集』にも触れて、作品の持つ文芸性を究明したい。
〔教科書〕 鈴木知太郎解説『影印本 和泉式部日記』（武蔵野書院）¥1,000

〔参考書〕 廣島まさる編『写本の読み方』（桜楓社）
¥ 680

中世文学

水原 一

中世を代表する軍記物語の巨篇『太平記』を近世流布の版本の形（影印本）で読み、解釈・考証を通して、題材となった歴史事件や時代思潮・人物造型など種々の問題を考察する。

〔教科書〕 水原・長谷川編『版本太平記抄』（桜楓社）¥1,900

近世文学

渡辺 守邦

近世の小説を、『伊曾保物語』から始めて『梅暦』まで読む。数多くの作品に触れてみることにともな、近世小説史の流れをも追ってみたい。

近代文学

片岡 懋

近代文学作品に現われた家の問題について、いろいろな作家の作品を通して考えてゆく。

国文学特講 I

近藤 瑞男

人形浄瑠璃最盛期の傑作『仮名手本忠臣蔵』をとり上げる。本年は、その後半、有名なお軽・勘平の悲劇や大星由良之助（大石内蔵助）の「力茶屋」の遊びなど、後半部分を中心に考察する。ビデオを使用し、日本の古典芸能に対する理解を深めることもできるよう、配慮をするつもりである。

〔教科書〕 土田 衛『仮名手本忠臣蔵』（笠間書院）
¥1,000

国文学特講Ⅱ

岩佐美代子

『千載和歌集』。中世最初の勅撰集であり、新古今集を生み出す基盤となったこの集を演習形式で読みたい。注釈書は無いに等しいので、自力による和歌読解の力を養い、多くの作品を読みなれる事を目的とする。

〔教科書〕 久保田淳校注『千載和歌集』（岩波文庫）
¥ 550

国文学特講Ⅲ

長谷川政春

日本文学における〈境界〉からの発想をテーマに講ずる。具体的には歌における代作、屏風歌の構造、物語における語り手の位相や場面の特性、日記文学における虚構性などの問題を手掛りに、古代（奈良・平安時代）の文学における〈境界〉のもつ意味を考えてみる。併せてその深層にある思考法および思想にまで言及できれば、と思っている。

〔教科書〕 特定せず。必要に応じて講義の中で指示する。

〔参考書〕 適宜、講義の中で指示する。

国文学特講Ⅳ

高田知波

テーマは〈一人称小説の構造〉。

「語っている私」と「語られている私」、および「語っている時間」と「語られている時間」との距離の問題に注目しながら、日本近代文学の具体的な作品に即して考えていく。

〔教科書〕 教場で指示する。

中国文学

中村璋八

中国の民族思想の中心的な陰陽五行説を集大成した五行大義を平易な解説をしながら、演習方式で読んで行く。この陰陽五行説は、儒教や道教など中国の文化の中で重要な位置を占めているだけでなく、日本にも夙に伝来し、奈良朝から江戸期に至るまでの陰陽道・仏教・神道・国文学・年間行事、民間信仰など多くの方面に大きな影響を及ぼし、現代においても暦・習俗の中に受け継がれている。そこで、国文学や日本史・東洋史を専攻する人々には欠かせない内容を含むものと思う。是非熟読されたい。

〔教科書〕 『五行大義校註』（汲古書院）¥3,000

中国文学演習

中村璋八

中国の風土の中から自然に発生した漢民族の智恵の結晶でもある易の書は、その後、儒家の根本経典、五経の第一に位置付けられ、「易経」として重要視され、長い時代、多くの人々に読まれた。この易は、占卜の書であると共に中国人の世界観、人生観をも記したものであり、中国の思想、宗教、文学にも大きな影響を及ぼしている。それだけでなく、日本の文学、宗教、習俗、建築など広い範囲に、その影響が見られる。この「易経」を南宋の朱子の註に拠って読んで行き、中国人の考え方を究めると共に中国古典、日本の漢詩文の読解力をも養って行きたい。

〔教科書〕 プリント

中国文学概論

篠原壽雄

中国文学全般にわたって概観できるようにつとめる。このために中国文学の歴史研究を中心にして、その時代相と文人と、その文学作品を学ぶ。なお、日本文学との関連作品なども併せ講じたい。

〔教科書〕 吉川幸次郎『中国文学史』（岩波書店）
¥1,600

仏教概論

山内舜雄

先づ仏陀観・仏身論の発達・形成という仏教の基本構造を詳説し、次いで各宗の教義を、概ね歴史的展開に沿って詳述する。すべてノート講義とし、教科書を使用しない。

東洋思想研究

館野正美

中国哲学の源流をなすと考えられる、中国古代の、いわゆる「諸子百家」の各学説を講義する。

諸子百家の中でも、特に、孔子・孟子・荀子らに代表される「儒家」、墨子の「墨家」、そして老子や荘子らの織りなす「道家」、以上三学派を中心に講じてゆきたい。

かくして、中国哲学の一典型を明らかにしたいと考えている。

〔参考書〕 授業中に紹介します。

日本史概説 I (古代・中世)

渡辺直彦

平安時代の諸様相について概観する。

〔教科書〕 『日本の歴史5 王朝の貴族』〔中公文庫〕(中央公論社) ¥640

日本史概説 II (近世・近代)

木槻哲夫

近世・近代にわたる日本社会の発展を概観しつつ、研究史にもふれ、併せて、新たな研究視角・問題点の発見に資するよう努めたい。

〔参考書〕 『地方史研究必携』(岩波書店)
¥4,800

日本文化史 II

有元修一

日本文化の多様な流れを概観するとともにその特色をあきらかにする。本年は特に中世後半から近世を中心とする。

〔参考書〕 家永三郎著『日本文化史 第2版』
(岩波新書)

書道史

谷村義雄

文字の発生から書体の変遷、書風の変化、書法の成立の過程を、まず中国に於ける書の歴史を辿り、また日本での独自の展開を概観する。本学では書道科の教職課程として開講しているため、書道史を中心に講義する。従って美術史も内容は書道史の延長とする。

〔参考書〕 神田喜一郎『中国書道史』(岩波書店)
¥5,800
『書の歴史』(二玄社) ¥1,800

書道実習 I

金子卓義

書の歴史を探りながら、古典の臨書を学び、表現技術の習得と、書の理解を深める。前半(9月頃まで)は楷、行、草の各体の古典を広く学び、後半は中国北魏時代の楷書『高貞碑』を細かに深く研究する。

〔教科書〕 『書道 I』〔高校用教科書〕(教育出版)

『高貞碑』〔書学名蹟選〕(日本書道資料刊)

書道実習 II

金子卓義

書の歴史を探りながら、古典の臨書を学び、表現技術の習得と、書の理解を深める。前半(9月頃まで)は楷、行、草の各体の古典を広く学び、後半は中国王羲之の行書『集字聖教序』を細かに深く研究する。

〔教科書〕 『書道 II』〔高校用教科書〕(教育出版)
『集字聖教序』〔書学名蹟選〕(日本書道資料刊)

美術史概説

林良一

中国の南北朝より朝鮮の三国時代を経て、わが国の飛鳥期の仏教彫刻にいたる様式的展開について講述する。各地の寺院遺跡や遺品などのカラー・スライドを映写し、視覚的に理解を深めるように努める方針である。

美術史

谷村義雄

書道科の教職課程として開講する関係上、講義や内容は書の歴史とする。

〔参考書〕 『書の歴史』(二玄社) ¥1,800

現代美術

宮崎克己

19世紀、20世紀の西洋絵画について、様々な角度から考える。絵画の造形表現の問題(色彩、空間など)、表現内容の問題(象徴性、思想など)、社会的問題(展覧会の形式、ジャーナリズムとの関係など)等を、代表的作品を選んで具体的に論ずる。

受講者には適宜、美術館、展覧会の見学、およびレポートの提出を要求する。

編集実務

宇賀田 達 雄

編集者は何を考え、どのような仕事をしているのか。編集者が知っていなければならないことは何か。編集者に必要な技術とはどんなものか——この講義では、主として雑誌づくりのために必要な知識を中心に、編集の現場での仕事のやり方を、できるだけ実技を通して伝えようと思う。将来マスコミ方面に進む人には当然必要な知識だが、情報化時代の今日、官庁でも企業でも団体でも広報誌、会報、カタログ、広告など、いろいろな形の印刷物を作る機会がふえているので、そういう場合にも対応できるように、編集の実務に必要なことをまとめてみたい。

〔参考書〕 『編集校正便覧』（印刷学会出版部）
¥ 250

英米文化

金 関 寿 夫

アメリカの文化を主として美術と文学との相関々係を中心に歴史的に考察、そのアメリカ的性格をさぐる。また音楽、演劇、映画にも言及することもある。（スライド使用）

〔参考書〕 教場で示す。

日本民俗学

渡 邊 欣 雄

私の民俗学という視野から、民俗学を論じ民俗学の扱う題材について紹介する。本講義は決して日本民俗学の概論講義ではないから、注意を要する。対象とする文化は主として日本本土ではなく、沖縄・台湾・香港・マレーシア等の南方であり、題材は宴・風水・鬼魂観・社会関係に及ぶ。

〔教科書〕 とくに用いず。

〔参考書〕 渡邊欣雄著『沖縄の社会組織と世界観』（新泉社）¥8,000
渡邊欣雄著『沖縄の祭礼』（第一書房）
¥3,800

英米文学科

基礎教育科目

英文学概論(中岡 洋)……………	87
米文学概論(金関 寿夫)……………	87
基礎英語 I A(東 雄一郎)……………	87
基礎英語 I A(河崎 征俊)……………	87
基礎英語 I A(坂本 武)……………	87
基礎英語 I B(N. Readdy)……………	87
基礎英語 I B(A.G. Ryder)……………	88
基礎英語 I B(T.J. Wright)……………	88
基礎英語 II A(東 雄一郎)……………	88
基礎英語 II A(河崎 征俊)……………	88
基礎英語 II A(坂本 武)……………	88
基礎英語 II B(N. Readdy)……………	88
基礎英語 II B(A.G. Ryder)……………	88

専門教育科目

英語学概論(大沢 一雄)……………	89
英作文 I(東 雄一郎)……………	89
英作文 I(岡田 尚)……………	89
英作文 I(佐藤 千春)……………	89
英作文 I(坂本 武)……………	89
英文学史 I(河崎 征俊)……………	89
英文学史 II(中岡 洋)……………	89
米文学史(佐藤 千春)……………	89
英語史(岡田 尚)……………	90
音声学(坂本 武)……………	90
英米語学演習(英作文 II)	
(57年度以前入学生:批評論研究)	
(佐藤 千春)……………	90
英米語学演習(英作文 II)	
(57年度以前入学生:批評論研究)	
(坂本 武)……………	90
シェイクスピア(荒井 良雄)……………	90
英文学演習 I(中世)(河崎 征俊)……………	90
英文学演習 II(英文学16・17c.)	
(河崎 征俊)……………	90
英文学演習 IV(英文学18c.) (小林 亨)……………	90
英文学演習 V(詩19・20c.) (中岡 洋)……………	91
英文学演習 VI(小説 I 19c.) (中岡 洋)……………	91
英文学演習 VII(小説 II 20c.) (飯島 淳秀)……………	91
英文学演習 VIII(批評19・20c.) (東 雄一郎)……………	91
米文学演習 I(詩)(金関 寿夫)……………	91
米文学演習 II(小説 I)(岡崎 寿一郎)……………	91
米文学演習 III(小説 II)(佐藤 千春)……………	91
米文学演習 IV(小説 III)(田中 剛)……………	91

米文学演習 V(批評)(土岐 恒二)……………	92
米文学演習 VI(小説 IV)(寺門 泰彦)……………	92
英米演劇演習(荒井 良雄)……………	92
英文学特講 I(英文学16・17c.)	
(石原 孝哉)……………	92
英文学特講 II(英文学18c.) (小林 亨)……………	92
英文学特講 III(詩19・20c.) (河崎 征俊)……………	92
英文学特講 IV(小説 I 19c.) (中岡 洋)……………	92
英文学特講 V(小説 II 20c.) (飯島 淳秀)……………	92
英文学特講 VI(批評19・20c.) (丸小 哲雄)……………	92
米文学特講 I(詩)(東 雄一郎)……………	93
米文学特講 II(小説 I)(佐藤 吉介)……………	93
米文学特講 III(小説 II)(山縣 敏夫)……………	93
米文学特講 IV(小説 III)(田中 剛)……………	93
米文学特講 V(批評)(佐藤 吉介)……………	93
英米演劇特講(落合 和昭)……………	93
英米語学演習(言語学)(大沢 一雄)……………	93
英米語学演習(英文法)(岡田 尚)……………	93
英米語学演習(英会話)(W.D. Hubbard)……………	94
英米語学演習(英会話)(N. Readdy)……………	94
英米語学演習(英会話)(T.J. Wright)……………	94
英米文化(金関 寿夫)……………	94
時事英語(大沢 一雄)……………	94
商業英語(町井 靖)……………	94
ラテン語特講(前期)(野島 利彰)	
(後期)(佐藤 玖美子)……………	94
日本文化史 II(有元 修一)……………	94
現代美術(宮崎 克己)……………	94

英 米 文 学 科

基礎教育科目

英文学概論

中 岡 洋

Shakespeareを始めとして多くのすばらしい作家たちが作りあげる英文学の世界は深い魅力をたたえている。その魅力ある世界について基礎となる知識を講じていく。英文学を学ぶ喜びを味わい、学ぶ意欲を一層深めてもらいたい。

米文学概論

金 関 寿 夫

米文学鑑賞研究に必要な時代背景、思想、文学批評などを解説、アメリカ文学の特質を明らかにする。

〔補助教科書〕 志村・八木著『アメリカの文学』（南雲堂）

〔参考書〕 教場で示す。

基礎英語 I A

東 雄一郎

平易な英文を通じて英語力を高める。言うまでもなく予習は必須。

〔教科書・参考書〕 開講時に指示します。

基礎英語 I A

河 崎 征 俊

英語の基礎力の向上をねらいとします。したがって、Reading, Translation, Hearing, Compositionなどを中心とした総合的学習を行ないます。予習・復習を欠かさないことが大切です。

〔教科書〕 教場で指示します。

〔参考書〕 未 定。

基礎英語 I A

坂 本 武

Tape使用を主体とする内容で、いわゆる「読んで訳して」ではない。毎時限「書取り」(Dictation)を実施し、いわゆるHearing (Understanding)の能力向上につとめたい。積極的に受講してほしい。出欠は重視する。

〔教科書〕 教場で指示する。

基礎英語 I B

N. Readdy

In the first semester, we will be using one of the textbooks in the English 900 Series. Emphasis will be placed on grammar, sentence structure, substitution drills and listening/comprehension skills. Group and individual participation is required.

In the second semester, we will be studying in preparation for the STEP Test level 3. Emphasis will be placed on pronunciation, intonation and individual speaking. The STEP Test is divided into two sections; listening and speaking. This class will concentrate on the speaking part only as listening skills should have improved after the first semester.

There will be two examinations during the school year and students are required to attend both to receive a grade.

Textbooks: 1st Semester. To be chosen later depending on the ability of the class as a whole.

2nd Semester. All materials will be supplied by the instructor

基礎英語 I B

A. G. Ryder

The primary aim of this course is to enable every student to make as much progress as possible in his/her ability to communicate effectively in English.

This implies not only ability to express one's meaning clearly in English, but also ability to understand native speakers of English. To achieve this aim, constant drill and exercises, both group and individual will be provided: in pronunciation, intonation, word-grouping, tempo and stress, and other factors.

The pace in all of my classes is fast and challenging with all of the students participating actively all of the time. Therefore, motivation is one of the prime requisites. ENGLISH will be the ONLY language spoken in the classroom.

Text to be announced later.

基礎英語 I B

T. J. Wright

This class will cover the four skills of the language comprehension. Students will be expected to try to understand and communicate in English. The class will be challenging and educational.

Textbooks to be announced.

基礎英語 II A

東 雄一郎

平易な英文を通じて英語力を高める。言うまでもなく予習は必須。

〔教科書・参考書〕 開講時に指示します。

基礎英語 II A

河 崎 征 俊

英語の基礎力から応用力への向上をねらいとします。テープを使用しながら「書取り」(Dictation)を行ったり、高度な英文構造の把握や、内容及び思考を必要とするCompositionの演習を行ないます。予習・復習に

努めて、積極的な学習を心がけることが大切です。

〔教科書〕 教場にて指示します。

〔参考書〕 未 定。

基礎英語 II A

坂 本 武

英検一級合格を目標とする英語総合力の養成につとめる。随時Tapeの使用をもってその効果を挙げたい。出欠は重視する。

〔教科書〕 教場にて指示する。

基礎英語 II B

N. Readdy

Method and materials similar to that of 1st year students but on a more intermediate level.

〔教科書〕 See content for 1st year students.

基礎英語 II B

A. G. Ryder

The primary aim of this course is to enable every student to make as much progress as possible in his/her ability to communicate effectively in English. This implies not only ability to express one's meaning clearly in English, but also ability to understand native speakers of English. To achieve this aim, constant drill and exercises, both group and individual will be provided in pronunciation, intonation, word grouping, tempo and stress, and other factors.

The pace in all of my classes is fast and challenging with all of the students participating actively all of the time. Therefore, motivation is one of the prime requisites. ENGLISH will be the ONLY language spoken in the classroom.

Text to be announced later.

